

第1回霞ヶ浦意見交換会議事次第

日時：平成14年12月15日（日）

9:30~12:00

場所：茨城県県南生涯学習センター
多目的ホール

主催：国土交通省関東地方整備局

霞ヶ浦工事事務所

共催：茨城県、水資源開発公団

議 事

1. 開会

2. 霞ヶ浦の概要

3. 意見交換

4. 今後の予定

5. 閉会

「霞ヶ浦意見交換会の設立趣旨」

霞ヶ浦の流域には、約100万人の人々が霞ヶ浦からの恩恵を享受し生活しています。

このかけがえのない霞ヶ浦を、みんなでもっと知り、みんなでもっと考え、将来、地域の財産として守っていかなくてはなりません。

このため、今後の霞ヶ浦の治水・利水・環境・その他について、流域にお住まいの方々や、霞ヶ浦で研究活動している団体等、霞ヶ浦の利用者及び関係行政機関などが一堂に会して、幅広い意見交換・情報交換を行う場として「霞ヶ浦意見交換会」を設置します。

第1回 霞ヶ浦意見交換会 発言依頼者名簿

平成14年12月15日

(50音順)

No.	名前	ふりがな	所属・役職等
座長	前田 修	まえだ おさむ	富士常葉大学教授 (湖沼生態学)
1	栗野 哲雄	あわの てつお	(社) 土浦青年会議所理事長
2	飯島 博	いいじま ひろし	NPO法人アサザ基金代表理事
3	飯田 稔	いいだ みのる	霞ヶ浦開発事業連絡調整代表者会議会長
4	磯山 正子	いそやま まさこ	麻生町家庭排水浄化推進協議会会长
5	伊藤 光雄	いとう みつお	(財) 霞ヶ浦水質浄化推進振興財団副理事長
6	今泉 和	いまいずみ やわら	霞ヶ浦問題協議会 (潮来市長)
7	小貫 勉	おぬき つとむ	霞ヶ浦漁業協同組合連合会総括主任
8	方波見 和夫	かたばみ かずお	きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長
9	菊田 宏	きくた ひろし	土浦市消防団
10	栗山 加代子	くりやま かよこ	土浦市立神立小学校教諭
11	黒田 久雄	くろだ ひさお	霞ヶ浦研究会会长
12	桜井 姚	さくらい よう	茨城県地域女性団体連合会会长
13	鈴木 正光	すずき まさみつ	茨城県企業局工務課長
14	椿 一則	つばき かずのり	大好きいばらき県民会議事務局次長
15	鶴田 清一	ときた せいいち	水郷潮来観光協会会长
16	萩原 光義	はぎわら みつよし	霞ヶ浦浄化ライオンズ会議実行委員長
17	長谷川 博	はせがわ ひろし	茨城県立土浦第二高等学校教諭
18	濱田 文男	はまだ ふみお	湖岸住民の会代表
19	廣戸 京子	ひろと きょうこ	巴川探検隊連絡会議会会长
20	堀越 昭	ほりこし あきら	(社) 霞ヶ浦市民協会理事長

<行政側出席者>

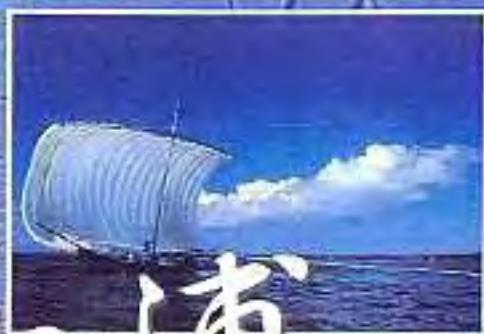
主催：国土交通省関東地方整備局 霞ヶ浦工事事務所

共催：茨城県 企画部・生活環境部・土木部・農林水産部

共催：水資源開発公団 霞ヶ浦開発総合管理所

S U M I G A U R A

ひと／街／自然とともに歩む



霞ヶ浦

事業のあらまし

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦工事事務所

霞ヶ浦の概要

広大な水面が広がる霞ヶ浦は茨城県の東南に位置し、西浦、北浦、外浪逆浦の3つの湖と北利根川、鰐川、常陸川からなり、これらを合わせた湖面積は約220km²である。

その流域は大部分を占める茨城県の他、千葉県、栃木県にも及ぶ42市町村にまたがり、大小合わせて56河川が流入し、流域面積は約2,157km²を占めている。湖面積に比べて水深が浅いという特徴を持ち、平均水深4m、深いところでも7m程度である。平面的には大小の入江や岬が複雑に連なり、湖岸線の総延長は約250kmと我が国の湖沼では最も長い延長を有した湖である。

流域の主な産業

土 筑	工業出荷額	23,340億円
農 菜	水田面積 レンコン田面積	420km ² 16km ²
畜 牧 業	豚飼養頭数 牛飼養頭数	322,700頭 40,700頭
水 産 業	内水面漁獲量 コイ養殖生産量	2,969トン 5,001トン

平成12年度



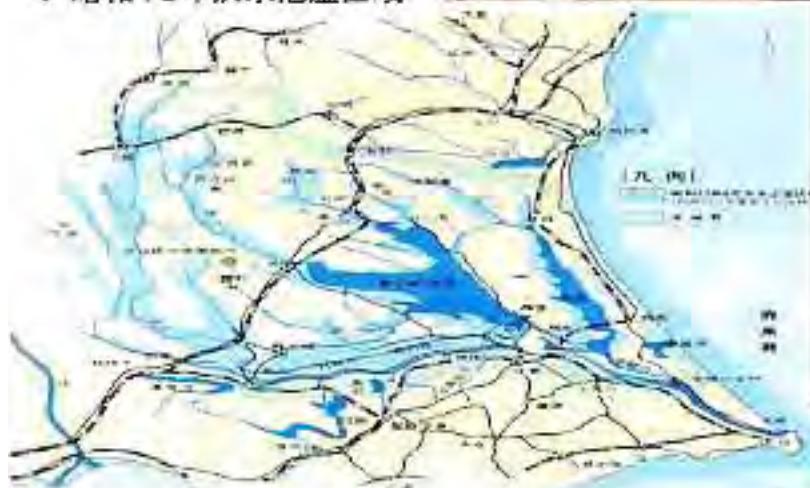
○ 災害(洪水、塩害等)

昭和13年潮来町の出水状況 昭和13年の大洪水(西船)

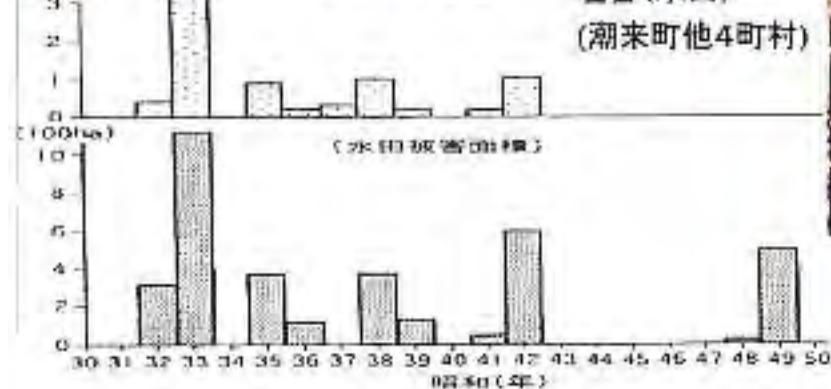


▼ 昭和13年洪水(土浦市内)

▼ 昭和13年洪水氾濫区域



【水田の被災状況】
昭和30~50年実績



塩害(水田)
(潮来町他4町村)

○ 環境(水質の変化)

COD経年変化図 (環境基準地点平均水質)



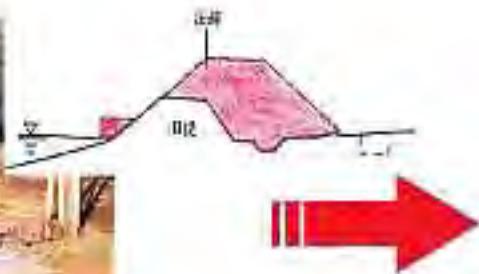
▲ 鯉の大量死(昭和48年)



▲ アオコ大発生(昭和48年)

○水害、塩害対策

・築堤



・常陸川水門（塩害・逆流防止）



○水資源開発

▼利用開発量

目的	霞ヶ浦開発事業の開発量(m³/s)			計
	茨城県	千葉県	東京都	
農業用水	18.13	1.43	—	19.56
上水道用水	2.50	1.56	1.50	5.56
工業用水	16.60	1.20	—	17.80
合計	37.23	4.19	1.50	42.92

▼給水計画図

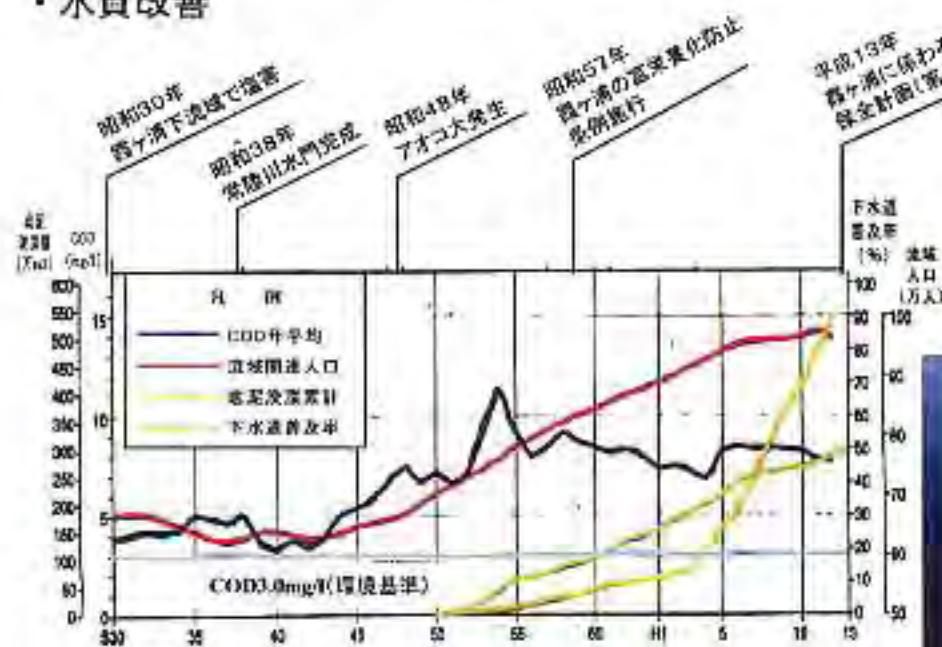


▲昭和42年（佐原市附州）

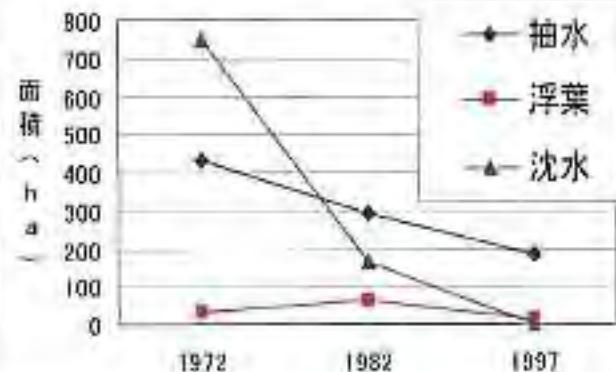
▲平成14年（佐原市附州）

○ 現状(課題と対応)

・水質改善



・植生の復元



漁業・農業・工業・地域が共存共栄し、自然環境に配慮した常陸川水門（逆水門）の柔軟運用と水位管理に関する提案

わたしたちは、霞ヶ浦・北浦の漁業と農業、工業、地域社会が共存共栄でき、自然環境の保全・再生に寄与する水位管理と常陸川水門（逆水門）の柔軟な運用に関する具体的かつ実現可能な提案をします。逆水門と水位管理に関して、わたしたちは、1997年から茨城県が有効利用の目処が立たず一般会計から支出されている鹿島工水第三期分（余剰水）を活用する提案をしています。ここに示す提案は、さらに具体的なものです。これらの提案は、先の第155回国会でも議論の対象となり、与野党から高い評価を頂いています。

霞ヶ浦・北浦の漁業の危機的状況や生物多様性の低下という重大な事態はますます深刻さを増しています。霞ヶ浦の環境保全への理解は水質保全に加え水産資源の保護や生物多様性の保全といった幅広いものになり、わたしたちの提案を実現させるための社会的状況が整いつつあります。そのために、関係する各主体が合意形成に向けたテーブルに着き、円卓会議を開催し、生物多様性の保全や水産資源の保護等に配慮した逆水門の柔軟運用と水位管理を実現するために、積極的に行動することが以前にも増して求められています。

わたしたちは実現可能で大きな効果がのぞまれる以下の提案をします。

活用の目処の立たない鹿島工業用水道の余剰水（日量30万トン）の一部（日量5千トンを農業用水に転用）を利用した塩害対策を実施しすると共に、10年程度で改築が必要となると云われている逆水門の設置位置の変更により、新旧の水門間に汽水域をつくり出すことで、漁業資源と生物多様性保全に配慮し、同時に塩害防止を強化した逆水門の柔軟運用を提案します。

わたしたちは、「可能な限り生物の移動を確保し、失われた汽水域を復活させ、同時に、塩害防止を強化する」ことを目標に、以下に示すような具体的かつ現実的な逆水門管理の実施を提案します（この提案を実現するには、各省庁の連携が必要ですそのためには、扇国土交通大臣が国会で受け入れた円卓会議の開催が不可欠です）。

提案1. 逆水門の上流側にあり、塩害の影響を受ける唯一の取水施設である鹿島南部農業用水の現取水口（常陸利根川左岸・逆水門の僅か800m上流）からの取水を、鹿島工業用水道幹線からの取水に転換する。

鹿島工業用水道幹線と鹿島南部農業用水道幹線は同じ県道の地下で隣接し設置されているので、この2つの幹線の接続工事は少ない費用（用地買収の必要無し）で実現できる。また、現在ほとんど利用されていない工水道幹線（取水は上流の北浦なので塩害が生じない）の有効利用にもなる。この提案は費用の面からも技術的にも十分に可能である。鹿島工業用水の取水口は、鹿島南部農業用取水口よりも約16km上流（鶴川）約23km上流（北浦・鹿嶋市爪木）にあり塩害の心配はない。

提案2. 鹿島工業用水の未活用余剰水を、これらの農業用水に一部転用する。

鹿島南部農業用水取水口からの取水量は、現在日量約5千トンであり、それほど多くはない。日量30万トンの未活用工業用水をこの一部に充てることは十分に可能である。農業用水と工業用水が同じ幹線を利用することは、すでに霞ヶ浦用水で行われており、行政機関の調整によって十分に実施可能である。

提案3. 逆水門の操作規則の見直しを行い逆流水の導入を行う。

利根川河口堰からの放流が多く、逆水門下流側の塩分濃度が低下した時に、逆水門を操作して下流側からの逆流を湖側に導入する。これにより、湖内への魚類など生物の移動をはかる。これは、操作規則見直しと鹿島南部農業用水取水口変更によって実現可能である。

提案4. 逆水門の新改築を上流側で行い常陸利根川を汽水域にする。

現在の逆水門は完成後すでに40年経ち、約10年後に新改築を検討する時期になると聞いている。そこで、新たに設置する逆水門（本来は河口堰）を現逆水門の約12km上流の神栖町

賀付近に設置し、同時に現逆水門も修理を行い存続させることを提案する。これにより、約12km区間、約3平方キロメートルの汽水域を生み出すことが可能となる。汽水域では水産物として商品価値の高いヤマトシジミの水揚げが可能となり、年間1億円近くの生産額も期待できる。その他、汽水域の創出によりウナギなど魚類の遡上が可能となり、湖全域での水産資源の増大や生物多様性の保全など、計り知れない効果が期待できる。

さらに、水門を二重に設置することで、塩分の遡上をコントロールしやすくなり、塩害の防止が現在よりも強化される。

注) 秋田県の八郎湖では、昭和62年に防潮水門の工事中に台風が襲い、一時的に海水が湖内に流入したために、ヤマトシジミが大量に発生した。この時の例で、ヤマトシジミの発生は一時的な塩分の増加があれば可能であり、その後また淡水に戻っても、ヤマトシジミは生存し漁獲可能なことが明らかになった。八郎湖でのヤマトシジミ等シジミ類の水揚げは、平成元~6年までの6年間で約2万7千トン、生産額は約50億円にもなる(参考文献、日本のシジミ漁業 たたら書房)。

提案5. 逆水門の柔軟運用および新改築、水位管理についての円卓会議の開催

わたしたちが示したこれらの現実的な提案に対して、「回答する立場がない」という回答(11/22)を行いました。霞ヶ浦工事事務所がこのような回答をせざるを得ない背景には、行政の縦割りの壁があります。それは、この問題について質問を受けた河川局長の答弁にも示されています(12/3参院環境委員会)。

わたしたちの提案の実現には、国土交通省や農水省、経済産業省、環境省等のいくつもの省庁の連携が必要です。それには、これらの行政機関に加え、逆水門や水位管理に関する利害関係者が集まり合意形成をめざすという明確な目標をもって、互いの立場の違いを越えた議論を行い、霞ヶ浦工事事務所や河川局が意志決定しやすい形で、提案をするための円卓会議という場がどうしても必要です。

私たちは、扇国土交通大臣の明言した湖に関する関係者を集めた円卓会議を開催し、湖水位の管理のあり方と逆水門の柔軟運用、将来計画されいる逆水門改築についての地域の合意形成を公開の場で行うことを提案します。

縦割り機構の中にある行政の枠組みの中で行われる「意見交換会」では、省庁間の調整が可能で地域の多様な意見を反映した、逆水門柔軟運用のための合意形成を行うことは不可能です。行政の限界は、今回の霞ヶ浦工事事務所の回答「当事務所は答える立場がない」という言葉にはっきりと示されています。そこで、わたしたちは、霞ヶ浦円卓会議(仮称)の主催および事務局を、第三者機関または行政機関とNPO等が共同で行うことを提案します。

提案6. 水資源に余裕のある今だからこそ、自然再生に寄与する水位管理を。

将来の水需要予測に関しては、様々な意見があります。しかし、現在は、計画通りの水需要に達していないことは明らかです。実際に2000年から冬の水位上昇を中断しても、まったく影響はありませんでした。水供給にかなり余裕のあるこの時期にこそ、これまでに失われた自然環境を取り戻すために、湖の動植物にできるだけ配慮した水位管理を実施するべきです。

湖の動植物に配慮した水位管理の基本は、冬の水位をできるだけ低く維持し、初夏から梅雨に向けて水位が上昇する管理が必要であると考えます。これは霞ヶ浦でもっとも学術的な研究が進んでいるアサザの生態と水位の関係からも明らかです。

わたしたちは、先の国会で成立した自然再生推進法に基づき協議会を設置して、湖の自然再生に寄与する水位管理について検討することを提案します。

この提案の具体化によって、農業者は塩害の不安から解放され、漁業者は減少著しい水産資源の回復を図ることができ、余剰工業用水の活用もできます。両者の共存は十分に可能です。この提案を実現することによって生まれる経済的・社会的な効果は大きなものです。

2002年12月15日

霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議 事務局長
NPO法人アサザ基金 代表理事

飯島 博

〒300-1233 牛久市栄町6-387 電話・FAX 0298-71-7166
E-mail asaza@fsinet.or.jp http://www.kasumigaura.net/asaza/

第154回国会 参院決算委員会 2002年10月16日

霞ヶ浦円卓会議等についての扇千景国土交通大臣の答弁

(質問、民主党 谷 博之 議員)

(前略)

谷博之君 いずれにしましても、これから交渉というのは、ともかく先ほど冒頭申し上げましたような大変大きな問題が横たわっておるわけであります、それらの一つ一つの、拉致問題を中心に解決を図って、その先の交渉については是非、先ほど申しましたような過去に国交のない、なかつた国との交渉でありますから大変難しいわけでありますけれども、国民の理解を得るような、そういう対応を是非これからも取っていっていただきたいと、このように考えております。

特に、外務副大臣にはこれからもますます御活躍をお祈りしております。

それから、次の問題でございますけれども、霞ヶ浦と沖縄の泡瀬干涸の問題についてでございますが、特に霞ヶ浦の問題につきましては、これは簡単に申し上げますと、今月の七日の日に、国土交通省の霞ヶ浦工事事務所、そして水資源公団の霞ヶ浦工事事務所の所長が、現地のNGO団体、アサザ基金に霞ヶ浦の水位上昇管理の再開を申入れをいたしました。

この問題、後ほど詳しく説明申し上げますが、霞ヶ浦のいわゆる冬の、冬季の水位を上げたいということで申入れをしたわけでありますが、これに対してNGO団体は反対をし、早速抗議をいたしました。

その反対をした理由というのは大きく二つありますて、一つは水需要の予測ですが、特に農業用水なども含めて予測を現実が下回っているということもありますし、それからもう一点は、霞ヶ浦の自然の水位というのは、冬に水位が下がって夏に水位が上がるという、こういう傾向を取っております。そのことによって湖岸の植生が正に自生して育っているという、こういう状況でありますから、何も水位を冬季に上げる必要はないわけなんです。

そして、今まで六万人を超える子供たちや地域の人たちが一生懸命泥まみれになってアサザを植え、水草を植えて植生を回復する活動をしてきていた。こういうことからすると、この水位を上昇させるということは正にこれを壊滅状態にさせるというふうに考えざるを得ないと思っております。

国土交通大臣にお伺いをいたしたいわけでありますけれども、今年の秋の臨時国会で環境省を中心になった議員立法、自然再生推進法案が議論をされるということになってきておりますが、この法案の骨子というのは、正にそうした地域のそういう自然保護の市民組織と一緒にになって自然回復事業をやっていくというのがこの法案の趣旨だと思うんですが、こういうことからすると、この水位上昇というのは正にそれに逆行する動きではないか。そしてまた、市民の皆さん方の十分協議もしないで、理解も得ないでやることについては余りにも一方的ではないかと、このように考えますが、中止するお考えはございませんか。お答えください。

国務大臣（扇千景君） 今、谷委員がおっしゃいましたように、瀬ヶ浦のこの水位の問題でございますけれども、既に国土交通省担当者等と事務所等ともお話し合いが既にあるということも伺っておりますし、御存じのとおり、今、谷委員がおっしゃいましたように、少なくとも流域内の小学校の約九割に相当します百二十一校、約四万人の生徒がアサザの里親としてこの事業に参加してくださっているということで、私は将来の日本人がこの環境をいかに大事にするかということを地元の皆さん方が熱意を持って推進してくださっていることには敬意を表したいと思っておりますし、今、谷委員がおっしゃいました地元のNGOの皆さん方との円卓会議、これも私は少なくとも既に広く流域の関係者の皆さん方とNGOの皆さん方とで円卓会議を開きまして、懇談の場というものを開催を呼び掛け、なつかつこの場におきましても植生の保全などに関して議論をしてまいるというその方針を明示してございます。

水位の問題に関しましては、この円卓会議、まして子供たちがこれだけ参加して里親としてアサザの育成に協力してくださっているというそのお話しと実例と、この円卓会議の結論をまたよく見守りながら話し合っていくというのが基本的な姿勢だと思っておりますので、今、谷委員がおっしゃいましたように、周りの水位に関しての対策工事はすべて完成しております。これはもう御存じのとおりでございます。けれども、完成しましたけれども、その水位を元に戻すかどうかというところが、NGOの皆さん方と含めた円卓会議で協議されるということでございますから、その結論というものを見守りながら、対処していきたいと思っております。

谷博之君 ありがとうございました。

是非そういう意味では、国土交通省、水資源公団とこのNGOの皆さん方の共催によるそういう円卓会議、その場をしっかりと尊重して、その場での結論を出すように、是非ひとつ今後ともよろしくお願い申し上げたいと思っております。

それから、沖縄の泡瀬干潟の問題でございますけれども、この問題につきましては、これ時あたかも、くしくも、十月の八日に沖縄の総合開発局は、実はこの地域、これは沖縄の東部海浜開発計画というこの計画にのっとって、海上にブイを設置していよいよ埋立工事の着工の準備に入ったと。月内にはその工事を着手しようという、こういう動きになっておりまして、ところがちょうどその地域の十三キロほど離れた北東の地域に、金武湾という湾がございまして、ゴールドの金に武士の武に湾と書きますが、ここに九月の十九日にジュゴンが二頭上空から撮影されております。青い海原にオレンジ色のジュゴンが泳いでいる姿がくっきりと写真にも写っておりますし、そういう大変この地域は、泡瀬干潟は、ジュゴンのえさとなる海草藻場、これが沖縄でも最大級の自生している地域だと言われておりますし、これは昨年の環境省の調査の結果でもそのことが報告をされております。そして、九月の三十日にこの埋立工事について、中城湾港泡瀬地区環境監視・検討委員会、こういう委員会が開かれまして、今後のこの計画についての委員会の議論がされました。

霞ヶ浦
海水を逆流させて
アトシジミ復活

田ヶ浦水系の流域は千葉県を経たる。O(民間非営利団体) 法人「アサヒ基金」(飯庭町や渡利町)は十六日、越ヶ浦で漁獲したヤマトシジミを、海水を汚染された河口シヨクトー川を振舞いながら、アーロシヨクトー寒風のための利根川水系常陸川送水門の排水沟溝頭を護土で埋め立て修理した。古く余糸工業用水の濁業用水溝頭を埋め立てて修理して、未だ未だ水域を通り出たため。

水門彈力的運用

関係機関に要望

第三回 勝利の喜びと、悲しみの涙

NPOが汽水化を提案

橋のNPO（民間非常組織）法人「アリスのプロジェクト」は、諒ヶ浦で激減したヤマトシジミの生息環境を改善するため、諒ヶ浦の水系常陸川逆水門の排水沟連用を国土交通省に要望した。

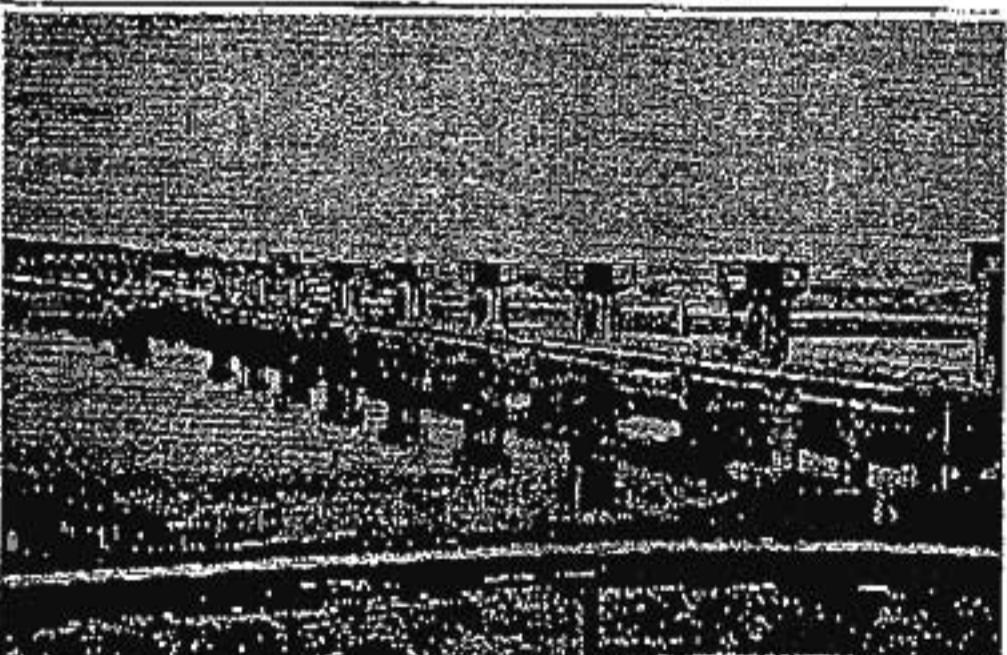
常陸川逆水門の排水沟連用を国土交通省に要望した。常陸川の水の農業用水を渠と農水省に要望した。

用が基本だが、工水の逆水管が数箇所並行する神栖町植綱の堤防下で面管を換

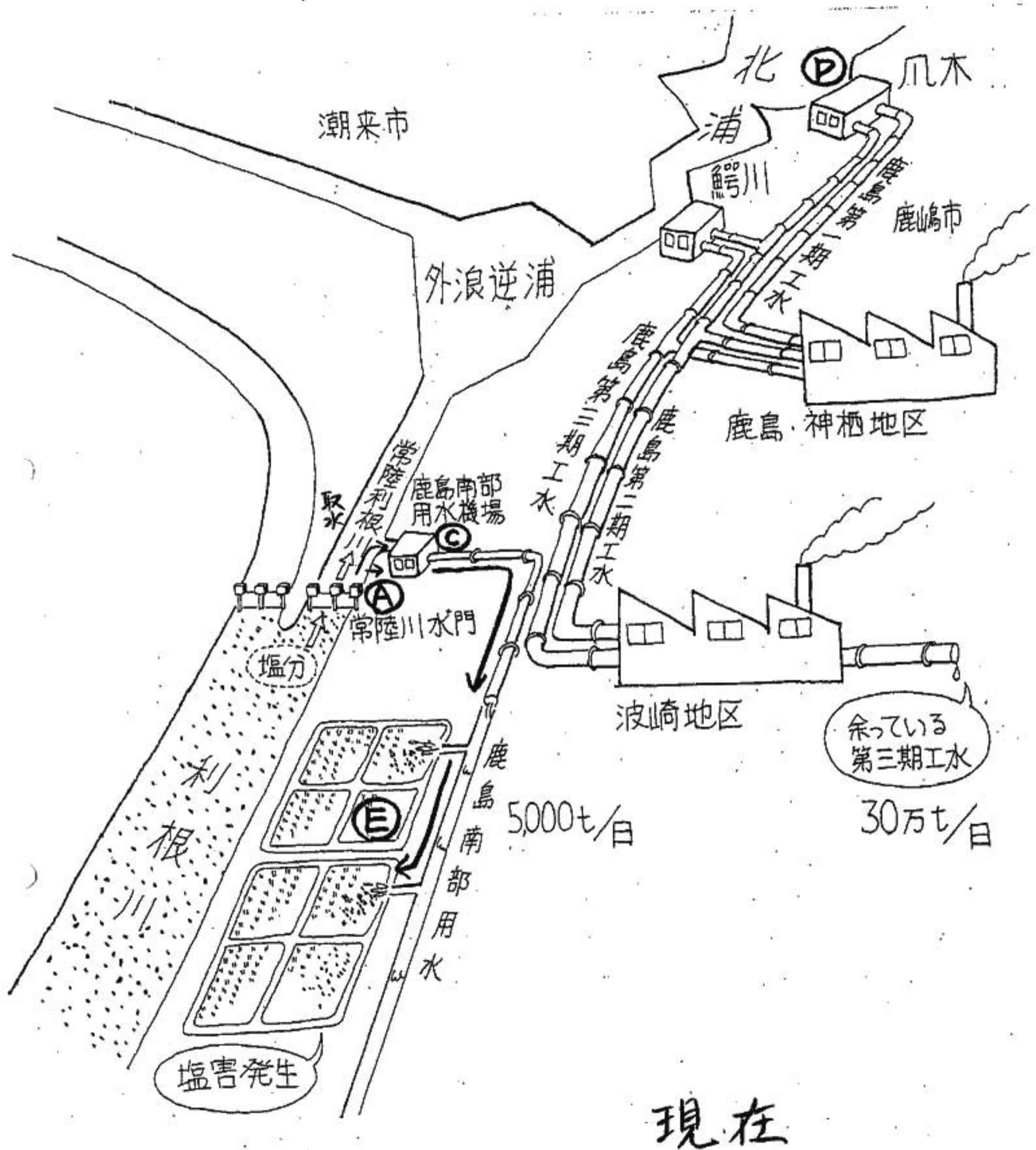
三十五万tの余剰工水を農水に転用する。常に工事で余剰の處理と振替防止が

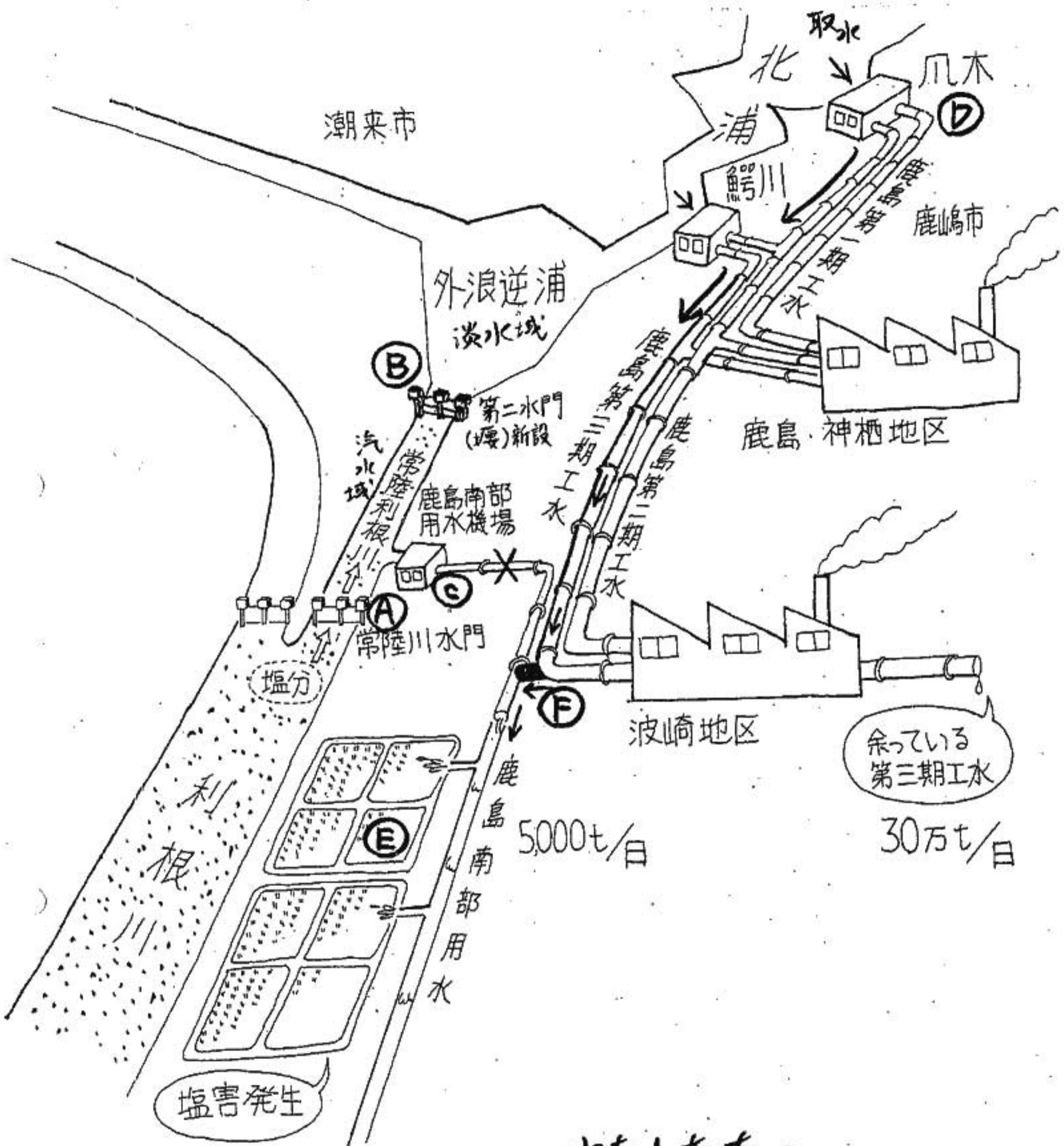
田が葉木だが、工水と海水の淡水管が数々設置され、並行する神栖町植木地区の堤防下で貯水を操作。三十万tの余剰工水のうち五十tを海水と調節する。そこで工費で余剰工水の活用と廃物防止が可能となりた。

を改正すれば即ち立派現
可能。巨額には時間が必
要で同種事は、関係者に
巨額の問題を皆ひき
けていた。



彈力的運用を要望された布陣川逆水門＝被服町で



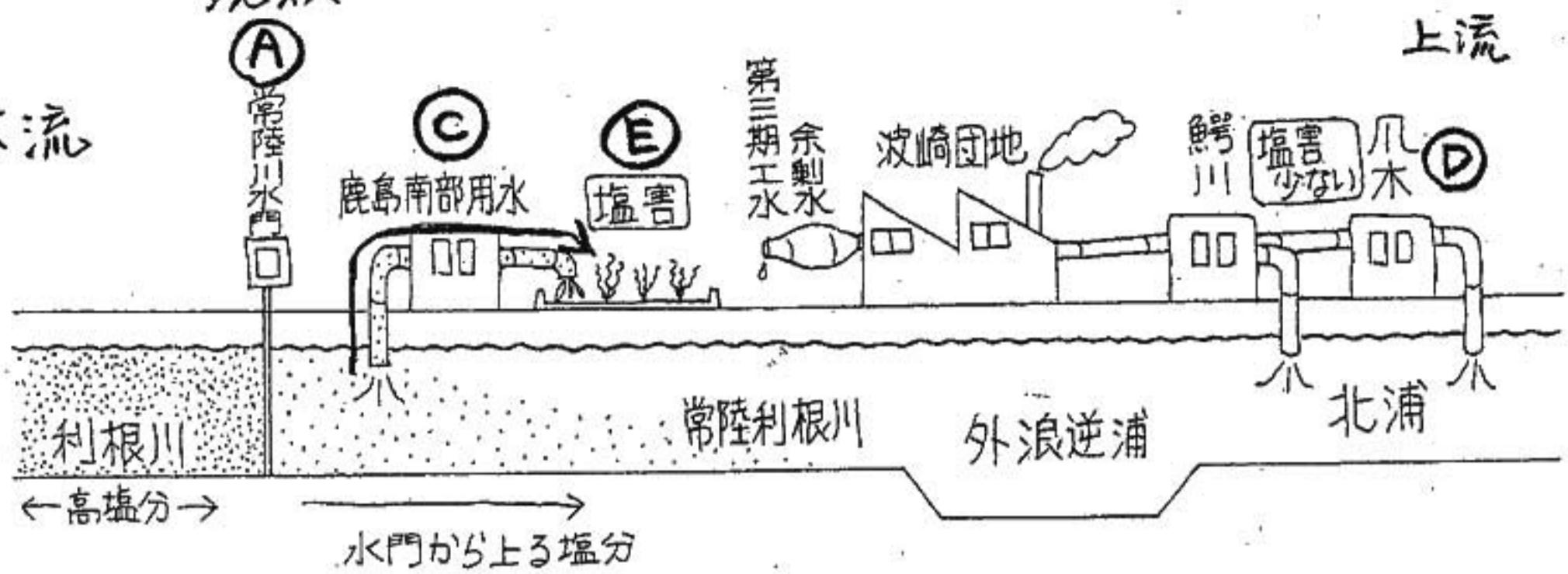


めたしたちの
 提案

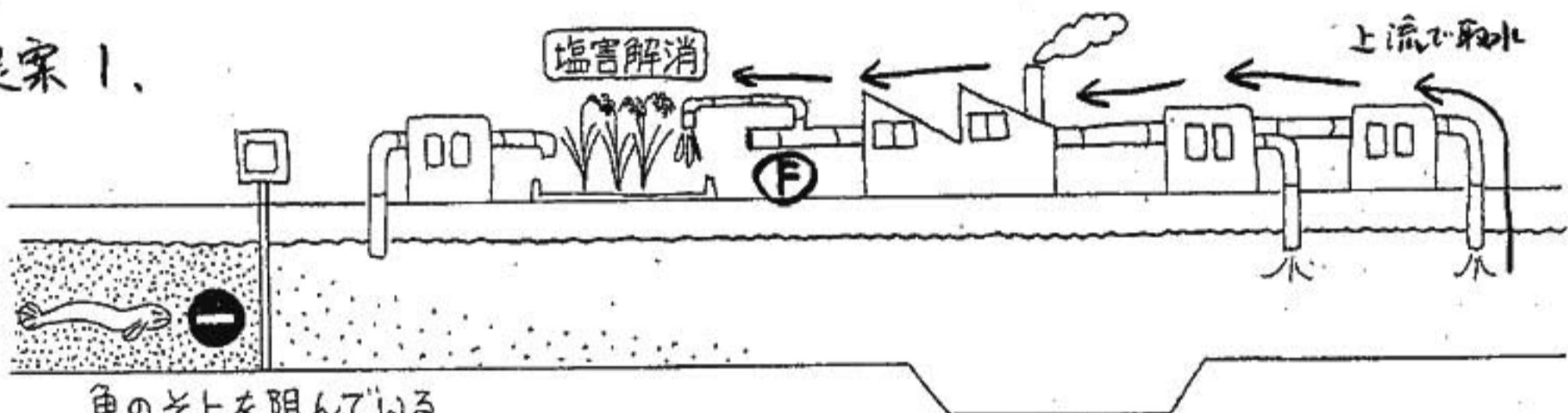
現状

下流

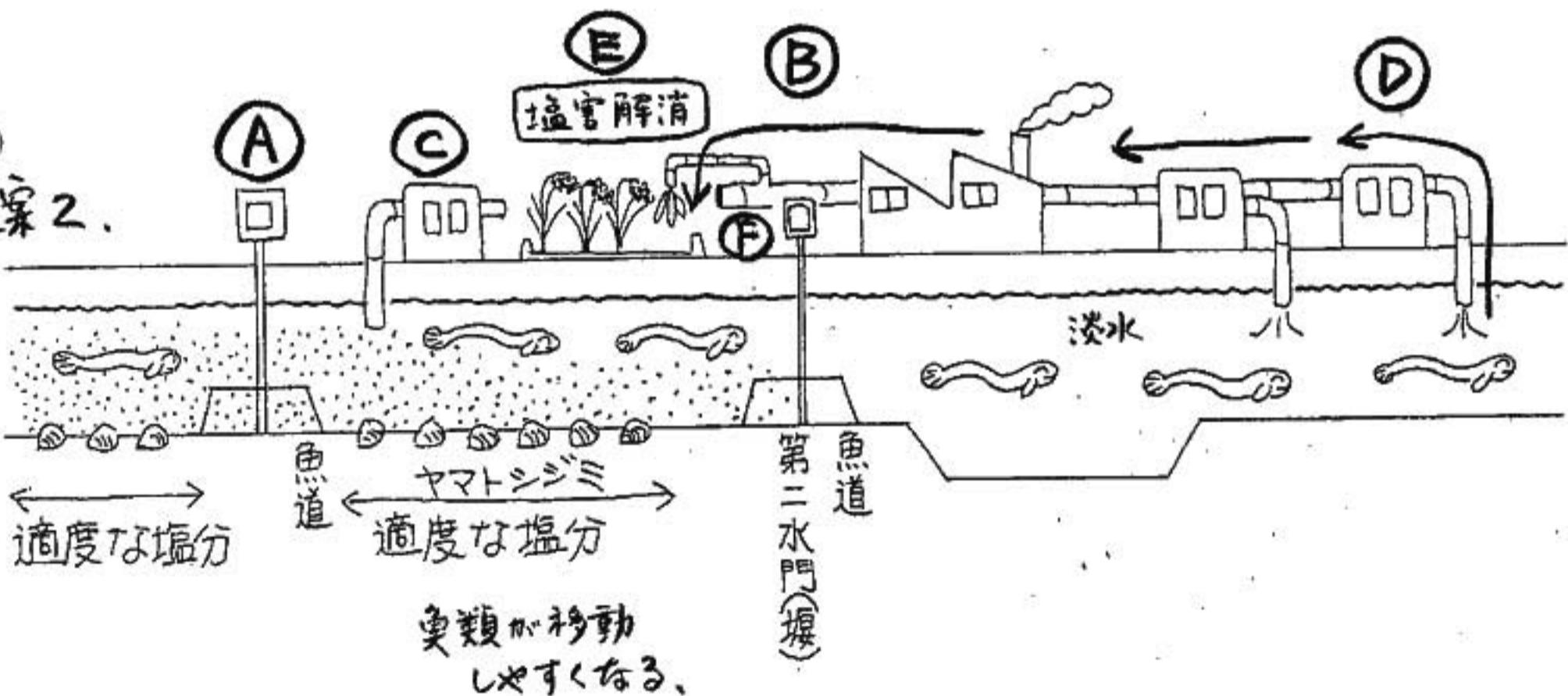
上流



提案 1.



提案 2.



発言者資料

麻生町家庭排水浄化推進協議会会長 磯山 正子 氏

麻生町家庭排水浄化推進協議会会長

磯山 正子

私がこの霞ヶ浦湖岸の麻生町今宿地区に住み始めて20年になります。その頃は毎日子供を連れて湖岸を散歩していました。漁業も今よりはかなり盛んでトロールの解禁日になると、早朝から漁船のエンジンの音がうるさく感じたものです。今ではそんな音は聞かれません。

水面だけを見ていると霞ヶ浦は少しきれいになったかなーと思うときもありますが、実際はそうではなくて、汚れの成分が変化しただけなのです。ここ何年かはアオコの発生は見られませんので、見た目には少しきれいに感じます。春と秋には大量のユスリカが発生して、私などは普段の生活に支障を感じるほどでしたが、最近ではこのユスリカもそう多くは発生しません。ユスリカはわかさぎの餌といわれていますので、そのユスリカがいなくなってしまったのですから、当然わかさぎもいなくなってしまいますよね。毎年わかさぎの解禁日の漁獲量は新聞で大きく報道されますので、皆さんもご存知のことと思います。

霞ヶ浦の汚染の一番の原因是家庭からの雑排水だといわれています。この流域に住んでいる私たちは、霞ヶ浦を汚す加害者だと自覚する必要があると思います。いつも霞ヶ浦が汚れてしまってと嘆く声ばかり聞きますが、こうした一因が自分にあると自覚している住民がどれほどいるでしょうか？

被害者意識ばかりが先走りしているように思えてなりません。

生活様式が変わったことを置き忘れて、以前と同じように用水路や排水路に家庭の排水を繋いで流してしまっているのが現状なのです。以前はそれでも霞ヶ浦に流れ着くまでには自然に浄化されたのですが、今は排水路はほ場整備によってU字溝の水路に変わってしまいましたので、昔の小川のような浄化能力はまったくないのです。でもここが一番の問題だと私は思うのですが、その事に関心を寄せる人がいないことなのです。以前と同じように浄化されると思っている人が多いことなのです。だから何の躊躇もなく流してしまうのです。

この意識を変えなければ、どんなに浄化を叫んでもダメだと感じています。そしてこの意識を変えるということがどんなに大変なことか。

麻生町でも町の中心部はかなり下水道が整備されてきたのですが、せっかく出来た下水道に家庭の排水を接続しない家庭がかなりの数あると聞いています。

問題意識を持っていればこんな事はないはずです。

男女共同参画社会に関する同じことが言えると思うのですが、すでに身についた既成概念を変えていくことは並大抵では出来ません。

急がばまれ地道な啓蒙活動が今のところ一番の方法のように感じます。

そして一人一人がほんの少し関心を持って、ちょっとした事を実践してくれるだけでも大きな力になると思います。

麻生町にはもうひとつ大きな問題があると感じています。それは土砂採取が盛んに行われていることです。山が削られて地肌がもろに現れています。植栽が行われないまま土砂採取が終われば業者は引き上げてしまいます。後に残されるのは無残な地肌です。雨が降れば吸収力を失った山は雨水を持ちこたえられるはずもなく、それはそのまま霞ヶ浦へと流れていきます。もともと水深の浅い霞ヶ浦は土砂を含んだ雨水によってますます浅くなってしまいます。

町にも条例はあるのでしょうか、なかなか効力を発揮するにいたってないのが現状のように感じられます。早い時期に何らかの法の力が働いて規制がされるようになって欲しいと強く感じています。

私がここに書きましたのは、主に西浦に関してですが、北浦の汚れもかなり深刻な状況です。最近まで北浦はきれいというイメージがありましたので、皆の関心が西浦の方に向かがちでしたので、後手後手ときてしまったようです。

西浦、北浦二つで霞ヶ浦です。五年十年の単位ではなく百年二百年そんな単位で霞ヶ浦の浄化と向き合っていきたいと思っています。

次のミレニアムを迎えるときは、遙か彼方の子孫たちが汚染された霞ヶ浦があったそうなそんな話が出来るように地道な努力をしていきたいと思っています。

発言者資料

霞ヶ浦研究会会長

黒田久雄 氏

2002年12月15日 霞ヶ浦意見交換会 霞ヶ浦研究会

霞ヶ浦研究会

霞ヶ浦研究会の目的と性格は以下のように規約に明文化されています。第2条(目的)「本会は、霞ヶ浦を中心とした環境資源の保全・改善並びに持続的発展に関する研究・調査、情報の交換・収集及び広報・啓蒙活動を目的とする。」第3条(性格)「本会は、上記目的に賛同する国・公立研究機関、大学、自治体、企業及び住民団体の個人及び団体が広く横断的に参加できる開かれた研究会とする。」このような、設立意図から今回の意見交換会に対して研究会としては、統一された意見を提出することはできません。ここでは、個々の会員の意見をペーパーとして提出させてもらいました。また、時間的制約があり研究会会員の全意見を聞くことができませんでしたので、今回は研究会の運営委員のみの意見をまとめ報告させていただきます。

会員からの意見(見出しのみ、長文は別途提出)

●流域の水田・休耕田・湿地の自然浄化機能を利用した流域水質管理及び生態系保全

畠地や畜産など発生源に近いところで水質浄化することが効果的である。また、水田に湛水することで水田に依存して生活してきた生物の保護がはかる。

●新たな治水対策(流域内貯留や流域外への強制機械排水)による霞ヶ浦の自然再生

地下への浸透域の拡大やため池・水田への一時貯留、機械排水などで治水対策を強化することで常陸川の断面縮小(海水遡上対策として)、一部堤防の撤去及び引き堤による湖岸帯の再生

●移入種の駆除に対する対策

駆除した移入種を肥料や動物のエサとして活用するなど多様な対策を立て生態系の保全を行う

○霞ヶ浦生態系構造の変動要因の調査解析体制の確立

○霞ヶ浦の全体像を把握する努力を!—ゆっくりとあせらずに—

○霞ヶ浦の歴史を学ぼう!—湿地などの復活を—

○砂浜の浄化機能の大きさを正当に評価し、泳げる砂浜の造成を!ワカサギの復活を!

○逆水門の開放時間の延長と除塩サイフォンによる塩害防止策の検討

○霞ヶ浦の水位変動はできるだけ、自然に任せる

○流入河川の堰は可能な限り撤去して、霞ヶ浦へ砂礫を供給する。

○霞ヶ浦の浄化についての責任の明確化

○霞ヶ浦の施策についての情報の公開と、行政と研究者、市民との情報の共有

○泳げる霞ヶ浦のモデル地域を作れないか

○泳げるまでに浄化に成功した内外の先進湖沼地域への調査団の派遣

○泳げる霞ヶ浦になった場合の経済効果・経済波及効果を調査研究しよう

○霞ヶ浦浄化についての調査研究委員会発足の提案

○水位調整について:湖岸植生帯復元を実施していることからも、植生帯衰退の要因となってきた冬季の水位上昇はするべきでない

○植生帯復元工事について:引き続きモニタリング調査(植物、動物、底質、水質等)を綿密に実施し、効果と問題点を見極めて、必要な修正を加えていくことが重要である

○導水事業について:生態系の搅乱をもたらす懸念が大きい。

霞ヶ浦意見交換会資料

平成14年12月15日

魅力ある霞ヶ浦に…

土浦市立神立小学校 教諭 栗山 加代子

1 霞ヶ浦に向かう車の中で

5年生の子ども達数人と、総合的な学習の時間での調べ学習で霞ヶ浦を訪れた日のことです。

11月下旬とはいえ、その日は小春日和の暖かい日でした。

霞ヶ浦に向かう車の中で、タクシーの運転手さんが、子ども達に話しかけ始めました。

「私は霞ヶ浦の帆引舟の写真展に毎年応募しているんですよ。霞ヶ浦は季節によって姿を変えて、それはそれは素晴らしいんです。私は霞ヶ浦町に住んでいます。筑波山を背景に撮った秋の景色なんて、もう、言葉に言えないほど…。」霞ヶ浦の素晴らしさを語る運転手さんに対して、子ども達の反応は「え～っ？霞ヶ浦って臭いし、よごれていてきたないよ！」

2 土浦ビオパークで

水をきれいにするには、植物の力も大事だということを確かめたいと言うので、まず最初に土浦ビオパークに行きました。到着するやいなや、子ども達は港に向かって車から走って行きました。

ところが最初に子ども達の目の前に飛び込んできたのは、土浦港の深緑色の水と、水に浮かぶペットボトル、巨大なブラックバスの死骸…。そしてどぶのようなおい。

「先生、やっぱり、霞ヶ浦って…」汚れた水を実際に目にすると、悲しそうでした。

その後、港の水質検査をしてビオパークを見学。

段々畠のようなビオパークを見て、子ども達は、大はしゃぎ。

「水しぶきがきれい」

「この葉っぱ、学校の池にあるね」

「緑があるっていいね」

「あ、シラサギがいた。何か食べ物があるのかな」

「魚はここにいるのかな」質問攻めが始まりました。



3 白鳥を見た

「先生、見てみて！白鳥がいるよ！」

何と、護岸に白鳥を見た！霞ヶ浦に白鳥がいるのを見たのは、私自身も初めてだったので、子ども達と一緒に驚きの声をあげました。近づいていくと、そこには小さな白い鳥の大群も。どうやら餌をあげている人がいるようでした。

子どもの一人が、餌をあげているおじさんに声をかけました。





「何をしているのですか？」
 「霞ヶ浦に白鳥をよびたいと思って毎日餌をあげているんだ」
 「毎日ですか！」
 「そう、朝と夕方。1日2回来ているんだ。」
 「大変ですね。」
 「いや、そんなことないよ。これはこれでおじさんの楽しみでもあるんだよ。」
 「あそこにたくさんいる白い鳥は何ですか？」
 「あれはユリカモメっていうんだよ。普通は海にいるんだけど最近この霞ヶ浦にやってくるんだ。何か、環境の変化でもあったのかもしれないね。」

しばらくの間おじさんと話した後、子ども達は水質検査をしたりゴミ拾いをしたりしていました。私は、去年参加した「霞ヶ浦親子水辺ふれあい事業」で植えたヨシどうなっているかが気になって見に行きました。残念ながら、ヨシは流されて残っていません…一度崩してしまった自然をもとに戻していくことの難しさを感じました。私がそんなことをしているうちに、

「先生、ここは波があって海みたい！裸足になって入っていいですか？」
 女の子が水に入っていきました。

「冷たくて気持ちいいよ～！
 水もきれい。みんなも入ったらどう？！」



4 子ども達にとって魅力ある霞ヶ浦とは

子ども達が抱いていた『霞ヶ浦』のイメージは、この1日で、霞ヶ浦に直にふれることによって変わっていましたように思います。

この日私が感じたことは、まず、直接「ふれる」ことが大事だということ。

そして、子ども達にとって魅力ある霞ヶ浦はたとえば、鳥、魚（メダカなど）、植物など、生き物がたくさん住んでいる場所であるということでした。

生き物の営みが感じられる霞ヶ浦。そんな霞ヶ浦の良さを取りもどしたいです。

発言者資料

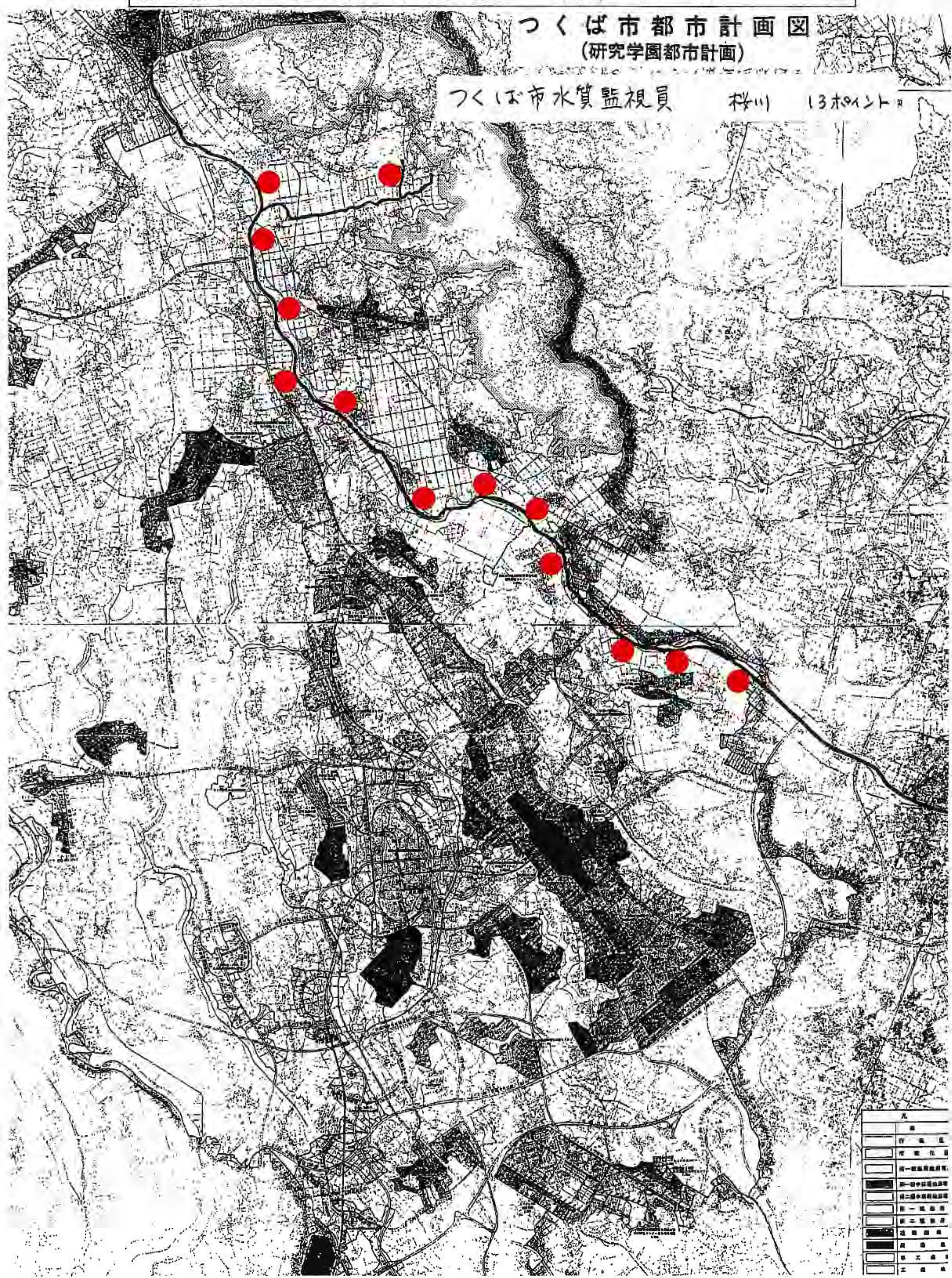
茨城県地域女性団体連合会会長 桜井 姚 氏

つくば市都市計画図

(研究学園都市計画)

つくば市水質監視員

桜川 13ホーリントン



11/15

No. 320

発行 つくば市
編集 企画部広報広聴課
〒305-8555 つくば市谷田部4741番地
TEL 0298(36)1111㈹ FAX 0298(36)9472
<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/>

つくば

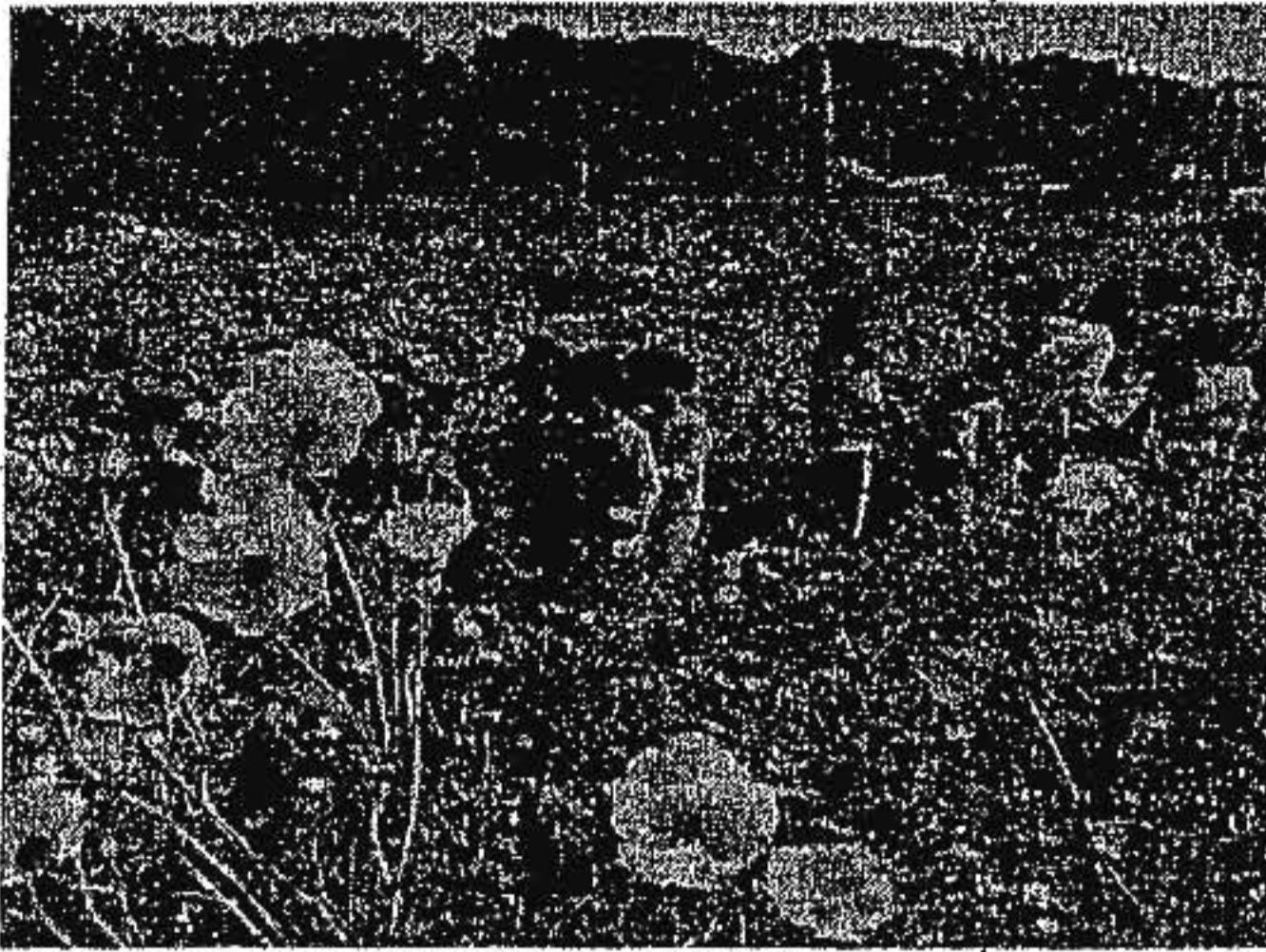
◆広報



▲色とりどりに咲いたコスモス畑を散策する私立栄幼稚園の園児たち

桜川の河川敷（松塚地区近隣）に「コスモス畑」が出現し、地域の話題になつていま。これは、河川敷を花でいっぱいにして、多くの方に訪れてもらい、水環境への関心を高めてもらおうと「つくば市水質浄化推進協議会」の会員が作ったものです。49人の会員たちは、週末を利用して荒れた河川敷の草を刈り、7月に種をまき育てました。同協議会では、今後、春に向けてポピーや菜の花の種をまく予定です。

「コスモス畑」が出現



コスモス畑で楽しいひととき=つくば市松塚の桜川沿い

つくば市松塚の私立栄幼稚園（橋本幸雄園長、園児百七十七人）は十七日、近くの桜川沿いコスモス畑でミニ遠足を行ない、年長の園児六十人全員が参加した。コスモス畑に着ぐと、園児たちはイヤやカマキリを追いかけたり、コスモスの花を摘んで髪に飾つたりして大はしゃぎ。「お花がきれい」「花を摘んでいいと思わなかつたから、うれしい」などと声を上げ、思い思いに自然を楽しんだ。ひと通り遊び終えると、次は健かに待つた昼食。川辺にシーツを敷き、風に揺れるコスモスを眺めながらの弁当はいつもよりおこづけ感じられた様子。園児た

コスモス畑でミニ遠足

つくばの栄幼稚園

お母終始にぎやかだった。

今回のミニ遠足は、霞ヶ浦、牛久沼と周辺河川の水質浄化を目的に活動している「水質浄化対策推進協議会」（鈴木清次代表）の働き掛けで同園が実施。河川に興味を持ち、親しみでもりおつとう試みの一環で、コスモス畑は同協議会の会員が春から草を刈り、畑を耕し、種まきをするなど手入れしてきた。

同協議会の島崎貴さん（女性）は「あさうの体験を通して自然に親しみ、子供たちに糞を大切にする心が芽生えれば」と話していた。

河川敷にコスモス

◆つくば◆ 松塚地区を流れる桜川の河川敷で、「市水質浄化対策推進協議会」（四十九人）のメンバーが育てたコスモスが赤や白な

どの花を咲かせている。
約六千平方㍍の土地を所有者から無償で借り受け、週末を利用して草を刈り、七月に種をまいた。昨年も桜川上流でごみの山を片づけた後の河川敷にコスモス畑を作つており（河川敷の「花一杯運動」）は二年目の取り組み。雑草に覆われていては足を運ぶ「水環境の大切さへの関心気が起きない河川敷も、花を咲めるきっかけになるの一杯になれば訪れる人も増へ」と話している。



桜川の河川敷に咲いたコスモスの花

霞ヶ浦に流入する河川の水質

茨城県立土浦第二高等学校 化学部

○仲田 真大 ○宇佐美 造平 ○宮城 忠 渡邊 正志 近藤 沙織 渡瀬 翁一

1. はじめに

本研究は、霞ヶ浦に流入する河川の水質汚濁状況の把握を目的とし、96年から霞ヶ浦全域の水質調査を行い、主要無機イオン、COD、窒素、リンなどを分析した。これらの分析結果をもとに、流入河川の水質汚濁状況を、霞ヶ浦の湖水、茨城県主要河川と比較した。さらに、霞ヶ浦流域の社会状況との関連について検討した。

2. 霽ヶ浦流域の社会状況

茨城県の東南に位置し、我が国第2位の湖面積を占める霞ヶ浦は、その10倍の流域を有する。霞ヶ浦流域は、水源地や水質浄化に大きな役割を担う森林面積率が全国平均の1/3以下であるが、耕地面積率がその3倍、農業粗生産額は4倍と、農業が極めて盛んな地帯である。さらに、霞ヶ浦流域は都市化が進む中央部、畑作・畜産地帯の北東部、利根川下流低地で水田が卓越する南部、森林面積率が高い北西部に大別される。

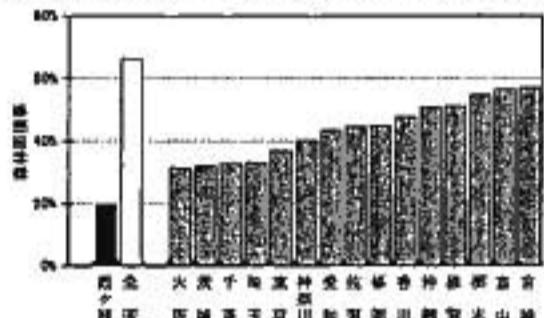
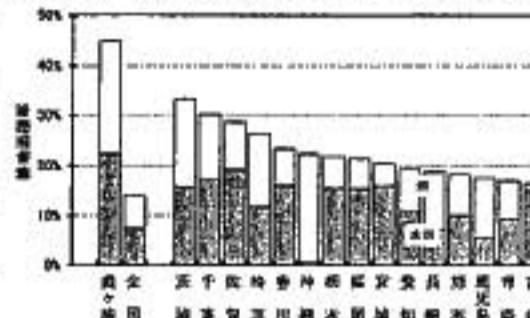


図1 跡ヶ浦流域の土地利用と農業



3. 調查方法

96年から水質調査を開始、97年からは毎月1回、流入河川19地点、湖水地点7、利根川1地点で、合計24回の調査を実施した。主な分析項目は、EC、主要無機イオン、COD、窒素、リンである。

なお、茨城県主要河川の水質調査は94年から27回実施し、同様な項目を分析した。

4. 水質調查結果

4. 1 EC(電気伝導度)と主要無機イオン

森林面積率が高い恋瀬川のE.C.は良好で、茨城県主要河川の鬼怒川、那珂川、久慈川を少し上回る程度である。しかし、その他E.C.は高く、霞ヶ浦に流入する河川は溶存イオン量が多いことが分かる。なお、工業団地排水の影響がみられる山王川、太平洋が大きく入り込んでいた香取海（現在の利根川下流低地）が徐々に陸化されていった地域の新利根川は $500 \mu\text{S}/\text{cm}$ を超える。一方湖水では、西浦の霞ヶ浦大橋、北浦の鹿行大橋、北浦大橋は流入河川とほぼ同じであるが、流出口の常陸川水門に進むほど高くなる。

主要無機イオンの水質組成が視覚的に検討できるヘキサダイヤグラムによれば、ECが高い山王川と新利根川は明らかに特異な水質である。しかし、その他の流入河川のヘキサダイヤグラムは図に大小があるものの、形状はほぼ同じで、水質組成に大きな差異はみられない。さらに、茨城県主要河川とも類似する。一方、湖水のそれは流出口である常陸川水門に進むほどナトリウムと塩化物イオンが順次増加する。

4. 2 COD, 硝素, リン

市街地の小河川では、生活排水、工場・事業所などが汚濁源になって深刻な状況を呈し、土浦市の新川、石岡市の山王川はその典型である。大きな点源負荷がない農業地帯の河川でも、有機性物質による汚濁は進み、茨城県主要河川のCODよりも高い値を示す。なお、新利根川は低地を流れるために水はほとんど停滞し、この影響が大きいと考えられる。富栄養化が著しい湖水は7.6~9.9mg/lの範囲を示している。

なかたまさひろ うさみこうへい みやぎただし わたなべまさし こんどうさおり わたせゆういち



図2 電気伝導度の分布

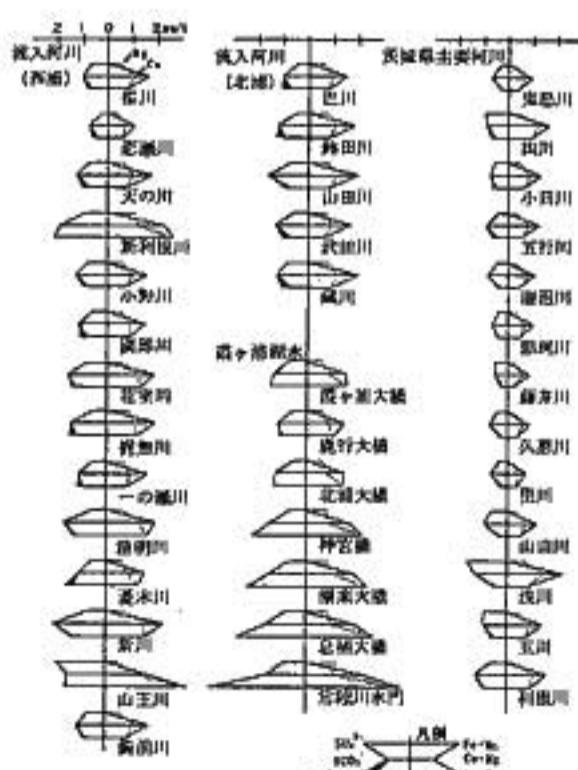


図3 水質分析図(ヘキサダイヤグラム)

北東部の畑作・畜産地帯を流れる河川は、高い全窒素濃度を示す。この主な要因として、大量に施肥された窒素肥料、糞堆の池や溝に溜められた家畜糞尿が、硝酸態窒素として地下へ浸透し、その後河川に流入することが考えられる。有機性物質による汚濁が著しい市街地の小河川でも、窒素汚濁は深刻である。

一方、森林面積率が高い北西部の桜川、恋瀬川の全窒素濃度は流入河川の中で良好である。これは、排出窒素量が少ない森林の影響との関連を示唆する結果である。

窒素とともに栄養塩であるリンの分布は、市街地の河川が高く、農業地帯の河川は低い値を示す。農地には窒素だけでなくリンも大量に施肥されるが、カルシウム、アルミニウム、鉄などと結合し、土壤中に保持されほとんど溶脱することがないと解釈される。

5. 主成分分析による水質区分

多変量解析の一つの手法である主成分分析を用いて、流入河川の水質区分を試みた。流入河川19地点、茨城県主要河川13地点について、13項目の水質調査結果の平均値を用い、標準化して行った。固有ベクトルの値から、第1主成分軸は水質の総合的評価軸で、負の方向は水質が良好である。第2主成分軸は水質組成の特徴を示す軸であると解釈できる。

主成分得点分布から、森林型（水質が良好）、農地型I（流入河川の中で標準的な水質）、農地型II（畑作・畜産地帯で高い窒素濃度を示す）、農地型III（利根川下流低地の新利根川）、都市型（水質汚濁が著しい）の5つに、流入河川の水質は区分することができる。

6. 流域の社会状況との関連

茨城県河川流域界（茨城県発行）、茨城県と千葉県統計年鑑の統計値を用い、重量法によって流入河川、茨城県主要河川の社会状況を試算した。次に、これら8項目の試算値を用い、標準化して主成分分析を行った。

固有ベクトルの値から、第1主成分軸は全般的な社会状況を示す軸で、正の方向は都市化が進んでいる、負の方向は自然が豊かな地域である。第2主成分軸は、農業形態の特徴を示す軸で、正の方向は畑作・畜産が盛んな地域であると解釈できる。

河川流域の社会状況は、森林地域、標準的農業形態地域、畑作・畜産地域、水田地域、都市地域の5つに区分することができる。そして、この区分は上記の水質による区分と大変良い一致がみられる。

当然のことながら、流入河川の水質はその流域の社会状況に大きく支配されていると言える。今後、霞ヶ浦の富栄養化を改善するには、河川からの窒素流入を抑制することは重要な課題であり、農業系、畜産系からの汚濁に視点を当てることが不可欠である。



図4 CODの分布



図5 全窒素の分布

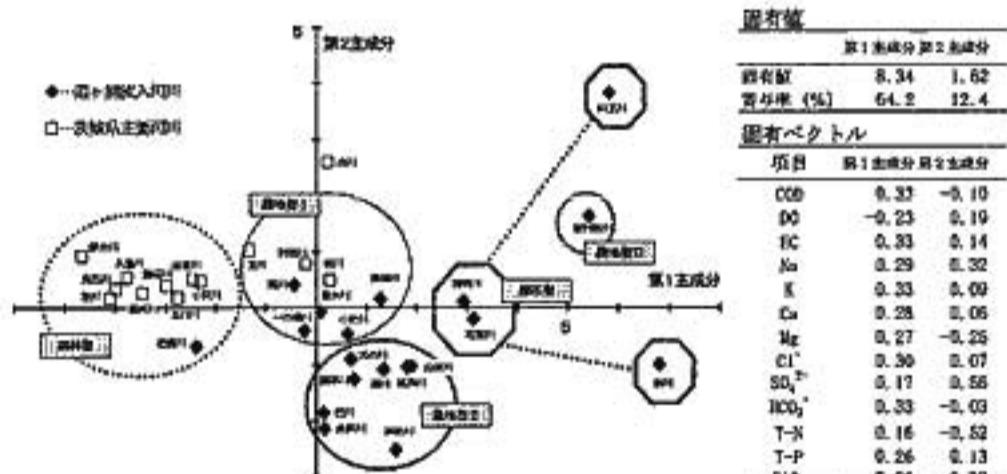


図6 水質の主成分得点分布

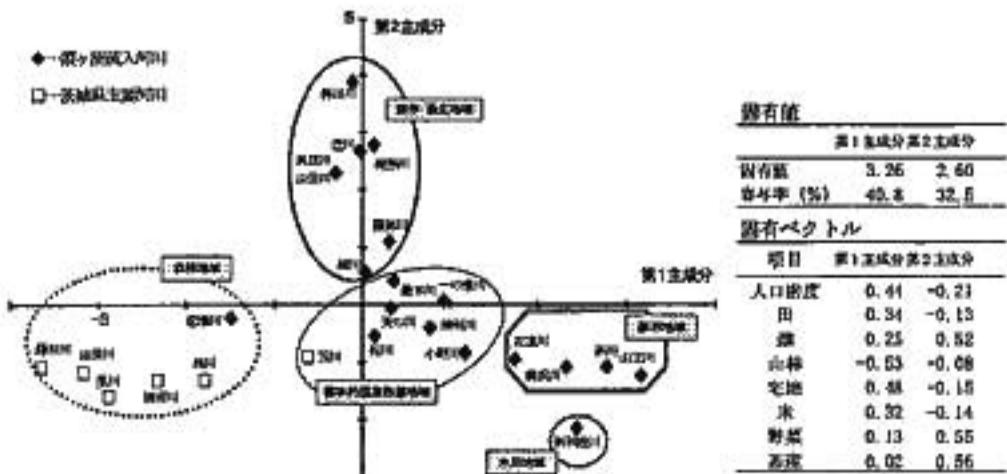


図7 社会状況の主成分得点分布

巴川探検交流会から

廣戸京子

茨城県民の心の湖・命の湖でもある霞ヶ浦をきれいな元の湖に戻したいという願いから、流域にはたくさんの住民運動がたちあがり、地道な活動をしているが、改善がなされない。まして、北浦の汚れは進んでいる現状の中で

“要因の半分が、生活排水ならば霞ヶ浦に流入する河川に問題があるのではないのかと気づく。”

霞ヶ浦には5 6本の流入河川があり、その河川に流入する小さな支流。それが各家庭の台所につながっている。

これらは住民が共通課題として、共有することによってみんなで想いを込め、ネットワーク化して実践していく。又、このことを大人と共に子供達にも自然の中で五感で知ってほしいという願いも込めて、流域・地域で楽しみながら発見する。

北浦を子孫からの預かり物として継承していくことから探検隊は発足した。

川に近づかなくなった子供達。

「良い子は川に近づかない。」のたて看板を河川付近で見かけるが、大人が危険を回避して自然の中で体験することの大切さ、【親水】・【遊水】は、子供達の心を育むためにも重要なことだと……大人達も、子供と共に流域の様子をウォッチングして「私達に何ができるか？」の機会とする。

☆（5月25日）巴川源流探検(岩間町)…………森と水の関係を知る。

「森は海の恋人」(畠山重篤)さんが書いているように、森林生態系における物質循環には廃棄物は存在しない。

“源流探検（愛宕山中）子供達は、水が森の中の岩を伝わって細い流れをつくっている。そこにはたくさんの動植物が存在する。”

その様子を観察することによって、森の木々が水をつくっていることを体験する。木には保水力があって、木の根っこはダムの役割を果たしている事。 緑のダムである事を知る。

又、そこに生きている小さなトンボ・ホタルの原虫などたくさんの動植物に触れる機会を持つことが出来た。

植物では、木苺 ⇒ この甘酸っぱい味。 不気味なマムシ草など。

源流部のきれいな水が、何故汚れた川になってしまうのか、改めて疑問を持つ。

☆（8月24日）河口探検(鉢田町)………鉢田町の河口を探検する。

“子供達の第一声は、あのチョロチョロと岩の間を流れていた水が、こんな大きな海のような川になるのに驚く。”

これが自然の営み、メカニズムであることを知る。
又、あのきれいな水が何故河口へくるとこんなに汚れるのか？

これは少しずつ上流・中流で汚したものが最後に下流へ来ると、プラス、プラスしてこのようになることに気づく。

この日も、カヌー、ドラゴンボートなどに乗って楽しい1日でもありました。

☆（1月25日）中流探検(美野里町)………白鳥の飛来する美野里町の池花池を中心とした巴川を探検する。

“池花池は昔、ジュンサイが採れた所でもあるが、今は採取出来なくなった。”
それが何故なのか、気づいてほしいとも思う。

※※※※※※※巴川から発信する※※※※※※

- ◎ 子供達と共に五感で気づいてほしい。
- ◎ 気づいたら考え、そして行動する。そして、ネットワークをたいせつに！
- ◎ 体験をもとに、自分たちの暮らしを考えることは、川・流域・地域を想う(愛する)気持ちを育む。
- ◎ 探検を通じて流域の人と人とのつながり、問題意識の共有化、流域の連携の強化。
- ◎ かけがいの無い財産である北浦を、次世代からの預かり物として、より良い形で引き継いで行きたい。

泳げる霞ヶ浦

2020市民計画 行動イメージ

全体運営

広報・出版

海外

組織運営

霞ヶ浦市民社会

里山
づくり生物多様性
研究身近な川
プロジェクト

モデル河川

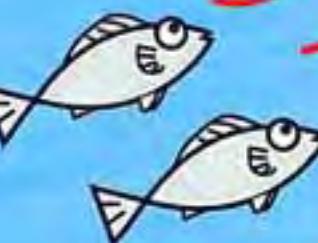
市民水質調査

水辺交流
プロジェクト霞ヶ浦探検
フィールド整備

霞ヶ浦フェスティバル

20年後
泳げる霞ヶ浦!!
15年後
泳ごう霞ヶ浦!!
10年後
泳きたくなる霞ヶ浦!!
5年後
水辺で遊ぼう霞ヶ浦!!
現在
あまり行かない霞ヶ浦!!

流域の視点

人とひと
プロジェクト流域活動情報
収集・発信「霞ヶ浦は
私たちのもの」共有化

自主研究

霞ヶ浦浄化
適正技術開発地域経済
プロジェクト霞ヶ浦
ゆったり時間創造
エコブランド創生

流域暮らし探検

暮らしの
プロジェクト環境教育
暮らしの
エコエッセンス

社団法人 霞ヶ浦市民協会 概要

組織の名称	社団法人 霞ヶ浦市民協会	発足年次 1996年
代表者氏名	堀越 昭	会員数 約700人
連絡先	住所：〒300-0033 茨城県土浦市川口2-13-6 電話：0298-21-0552、0660 FAX：0298-21-6209 E-mail:kcajimukyoku@dream.com	URL http://www.kasumigaura.com
活動の範囲・フィールド	霞ヶ浦流域を中心とした茨城県内	
交流・連携をしている主な団体やその数	(財)国際湖沼環境委員会、(社)土浦青年会議所、(財)霞ヶ浦浄化推進振興財団 霞ヶ浦問題協議会、霞ヶ浦研究会など約40団体(会報交換を含む)	
財源	会費、受託事業費、助成金、協賛金など	
流域圏を単位とした取り組みの目的	霞ヶ浦の汚濁負荷減の約4割を生活排水が占めている現状から、住民や事業者が日常生活や産業活動の中で、霞ヶ浦に配慮する行動様式を取るべく、種々の活動を通して交流し、「泳げる霞ヶ浦」を目指す。	
活動の契機	第6回世界湖沼会議(開催地霞ヶ浦 1995年)が多数の市民参加によって成功をおさめた事からさらに市民活動を支援し活発化することを目指して、1996年に社団法人として発足した。	
活動内容	暮らしのプロジェクト：霞ヶ浦ジュニアレンジャー養成講座、家庭版ISO制度作り等 身近な川プロジェクト：市民による水質調査、里山作り、生物多様性に関するシンポジウム等 水辺交流プロジェクト：泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル、泳げる浜づくり等 地域経済プロジェクト：霞ヶ浦エコブランド創生事業、霞ヶ浦浄化の適正技術開発事業等 人とひとプロジェクト：霞ヶ浦インフォメーションセンター運営、湖上実践セミナー等 全体運営：協会運営全般、会報・年報発行、(仮称)霞ヶ浦春の市民博覧会等 研究室：自主研究(土浦港湖水観測、定期湖水観測、大腸菌調査他)等	
専門委員会	業者等選定委員会、規約規定検討委員会、登録研究員委員会 泳げる霞ヶ浦2020市民計画審議会	
横断的な調整・連携をはかる為の創意工夫	協会活動を流域各地に広げていくために、泳げる霞ヶ浦2020市民計画審議会を設置し目標である「泳げる霞ヶ浦」達成のための基本構想と行動計画を策定し、活動を行っている。	
各参加主体との連携上の問題、課題	行政との関係	国土交通省、茨城県、流城市町村とは良好な協力関係にあり、パートナーシップを実践しつつあるが、さらに発展させるためには、協会側の組織拡大と充実、行政サイドでは市民活動への支援体制の制度的確立が課題である。
	他団体や地域住民との関係	流域を中心に約700名の会員(企業・団体含む)に支えられており、関心のある人々には既に会員となり活動いただいているが、さらに霞ヶ浦を大切にするネットワークを強化するには、会員拡大が重要である。また環境問題だけに限らず、多くの市民団体との連携の強化も課題となっている。
	企業との関係	霞ヶ浦浄化には流域企業の環境意識の高揚が重要であり、協会は、そのための企業家育成を目指している。又法人会員も多い。しかし財政的、技術的な支援については今後の課題が多い。
	専門家や研究者との関係	協会独自の研究室を設置し、主任研究員を中心に種々の調査研究を行っている。また、登録研究員制度を設けて時に助言を受けたり調査研究活動への協力をいただいているが、まだ十分に活用し切れてるとはいえない。さらに研究室を充実させ、受け入れ体制作りを推進し、研究者との連携を重視したい。
取り組みを横断的に調整・連携していくために必要な制度や体制に関する考え方	霞ヶ浦にかかる行政、企業、研究者、漁協、水産加工、市民団体等が同じテーブルについて各々の立場を尊重しながら話し合う場を構築し霞ヶ浦再生に取り組む。	

青年会議所活動と霞ヶ浦のかかわり

私たち（社）土浦青年会議所は、1958年茨城県2番目の青年会議所として誕生いたしました。青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現のため、20～40歳までの若者が集い情熱を持って自ら行動することにより夢を希望に結びつけ実現させていく団体です。

土浦青年会議所では、「かすみがうら委員会」という他の青年会議所にはない独自の委員会を設置し「霞ヶ浦」という恵まれた湖・自然環境を通して、「明るい豊かなまちづくり」「心の通うひとづくり」を目指し、さまざまな角度から活動を行っております。

近年の主な事業として、1999年に「霞ヶ浦バスフィッシングトーナメント in 土浦」、2000年に「霞ヶ浦ミーティング in 土浦」、2001年に「霞ヶ浦キャンピングスクール」、そして今年は「霞ヶ浦ジュニア会議 in 土浦」を開催致しました。これまでの事業を通して地域の皆様と霞ヶ浦の未来について意見交換を重ねてまいりました。その結果、霞ヶ浦にふれることの大切さを再認識し、霞ヶ浦という共通のフィールドを通して子ども達と地域（市民の方々・行政・霞ヶ浦関連団体）が連携協力することにより、私達の憩いの場として、また、人々のふれあいの場として利用できる霞ヶ浦を目指すためにネットワークを築くことが大切であると考えます。

今後、次世代の子供たちに引き継いでいけるような霞ヶ浦の理想像を追求しその実現に向け活動を推進して参ります。

問題点（要因）

水環境の悪化（アオコノ発生） 水都としての商業の衰退（水運）

流域住民の湖とのかかわりのうすさ 漁獲高の減少



地域（市民・行政と霞ヶ浦関連団体等）とのネットワーク

まちづくりの一貫としての霞ヶ浦

かすみがうら霞ヶ浦環境会議

委員会の歴史と主な活動

1986年	霞ヶ浦委員会	霞ヶ浦の環境問題を主に取り扱う組織として霞ヶ浦環境会議が発足。主な活動は、霞ヶ浦の環境問題を調査・研究し、意見交換会を開催するなどである。
1991年	政令都市委員会	『100万都市フォーラム』の開催
1992年	『かすみがうら1万人アンケート』の実施	霞ヶ浦の環境問題に対する意識調査
1992年～1995年	青少年開発委員会	『かすみがうら探偵団 part I～VI』の開催
1993年～1995年	環境問題委員会	霞ヶ浦の環境問題に対する意識調査
1996年	かすみがうら委員会（ひらがな＝湖単体では無く、霞ヶ浦流域河川や湖を含む霞ヶ浦環境会議の別組織として運営）	親子バス釣り大会、ターザンジャンプ第1回 こうなったらしいな！霞ヶ浦 map 霞ヶ浦アドベンチャークラブ 霞ヶ浦フェア97（40周年LOM事業） 98かすみがうら探検王国 99霞ヶ浦バスフィッシングトーナメント in 土浦 霞ヶ浦ミーティング2000 イン 土浦 かすみがうらキャンピングスクール かすみがうらセミナーpart I～III 霞ヶ浦ジュニア会議2002 イン 土浦 霞ヶ浦キャンピングスクール2002
2003年	かすみがうら委員会と青少年育成委員会として活動予定	霞ヶ浦の環境問題に対する意識調査

青年会議所活動と霞ヶ浦とのかわり

"The Activities of Tsuchiura Junior Chamber and Lake Kasumigaura"

【(社)土浦青年会議所 かすみがうら委員会】
Kasumigaura committee, Tsuchiura Junior Chamber

甲野 浩規 説田 賢哉 羽方 昇
Hiroki KOUNO Masaya SETSUTA Noboru HAKATA

朝土浦青年会議所は、昭和33年に全国で141番目の青年会議所として設立されました。明るい豊かなまちづくりを目指し、近年では、98かすみがうら探検王国、99霞ヶ浦バスフィッシングトーナメントin土浦、霞ヶ浦ミーティング2000in土浦などさまざまな活動を展開し現在に至っています。たくさんの人々と共に霞ヶ浦に直接ふれあい、あらためて霞ヶ浦を認識すると同時に今後私たちがどのような活動をすることが美しい霞ヶ浦に成り得るか、そして、子供たちに将来どのようにつながり得ていくかを模索しております。2001年は「かすみがうら学校」(8月開校)を開催し、これを含めた報告をさせていただきます。

Tsuchiura Junior Chamber was established as the 141st junior chamber of commerce in Japan in 1958. Since then, it has been aiming to enhance the life and affluence of the community. The recent activities of Tsuchiura Junior Chamber are as follows: Exploratory Kingdom of Kasumigaura in 1998, Tsuchiura Bass Fishing Tournament in 1999, and Kasumigaura Meeting 2000 in Tsuchiura. Through interrelated activities helping many people to recognize the value of Lake Kasumigaura, Tsuchiura Junior Chamber seeks to connect its activities with the purification of the lake and with the future of the children in this region.
The paper will include the report of Kasumigaura School, which will be opened August 2001.

かすみがうら探検王国

かすみがうら探検王国では、社会問題として大きく取り上げられていることが多い環境について、地域の永年の課題でもある霞ヶ浦を考えた時一人でも多くの人に自然に触れてもらしながら実践できる手法を体験することにより関心の輪を広げて行きたいと考え、「かすみがうら探検王国」を開催いたしました。

私たちが小さい頃経験した自然との遊び方を体験したり、現在の湖岸や生き物の移りかわりを自分の眼で確認し、実践コーナーでは自然にやさしくするにはどうしたら良いか直接感じて頂き、自分で出来る第一歩をふみだして頂く糸口になると確信し、第1回は、発足式—20年前の映画上映による霞ヶ浦の歴史(昔の様子)の勉強、第2回は、自然の中でのオリエンテーリングを行ない動物や植物の観察、そして衝撃的な伝説の珍獣の出現に驚き、また、自然の中で拾い集めた落ち葉や木の実などの植物等を用いての遊び方や、草木染めや工作教室を体験していただきました。第3回は、クルーザーでの霞ヶ浦の湖上観察や水質調査、湖畔の動植物の調査観察をしていただき、第4回は、ビオパークで摘んだクレソンなどの霞ヶ浦産食材を集めての料理教室と自然にやさしい水処理法(ナイロンタワシの使用による水流さない洗い方)の勉強、第5回は集大成として探検結果の発表、探検マップの作成、自然との付き合い方についての意見交換、終了式。と以上のように1回~5回の体験を通じて子供たちは行動する未来のファシリティエーターに成長できたと実感することができました。

(1998年4月~8月まで月1回開催、27家族68人参加)



Explore the Kingdom of Kasumigaura in 1998

Explore the Kingdom of Kasumigaura seeks a wider interest and deeper awareness of the community toward the environment that has become one of the major social issues of our times, by learning protection measures for its ecosystems through hands-on experience.

The objective of this program was to invite the residents' to volunteer for environmental protection efforts, through activities such as those we enjoyed outdoors as children, lakeshore and creature observation and a practice corner for learning how to help the environment. On the first day of the program, an opening ceremony and movie show on the history of L. Kasumigaura was held. The second day was orientation to the surrounding area; this involved the observation of plants and animals, enjoying the frightening appearance of a legendary rare animal, collecting fallen leaves and plants including nuts, a plant dye workshop and a nature craft workshop. On the third day, the children experienced lake-monitoring, which included sampling water on a cruiser and inspecting plants and animals around the shoreline. On the fourth day, a cooking class was held using materials from L. Kasumigaura, such as cress from Biopark, with an explanation of water treatment without draining using a nylon brush. On the fifth day after the final presentation of the exploration, the children made an exploration map, and discussed how to help the environment, followed by the closing ceremony. All sorts of activities in the program helped to educate children to become future ecology facilitators. (27 families, 68 people participated in this monthly program from April to August 1998.)

Tsuchiura Bass Fishing Tournament in 1999

1997年5月25日にわが土浦青年会議所創立40周年を記念する式典と共に開催した事業(イベント)の一つとして第1回バス釣り大会を約700名の参加者で盛大に開催し、1999年6月13日(日)第2回大会を開催しました。

近年のバス釣りブームで霞ヶ浦は、琵琶湖、河口湖とともに観光(スポーツ)の一つとして取り上げられ、週末には1万人もの子供から大人まで幅広い層のアングラー(釣り人)が我々の財産である霞ヶ浦に訪れている。そこで我々は、水辺に親しんでいただき環境保全の啓蒙と霞ヶ浦(土浦)のPRを兼ねてこのイベントを開催し、釣りをしない方でも楽しんでいただけるよう趣向を凝らした同時開催イベントを用意し、そして「自分たちのフィールドは自分達できれいにしよう」と合言葉に釣りをしながらゴミ拾いをしてもらいたくさんのゴミを集めることができ、参加者に「ゴミを拾うことはもちろん、捨てないようにしよう」と言うことをアピールすることができました。

この大会は、登録1361名(1205名)の参加者を得て盛大に開催することができ、同時開催イベントを含め、およそ2,000名の人々に1日楽しんでいただきました。

なお、この大会当日1,205名中758名の参加者よりアンケートに答えていただき霞ヶ浦に対する想いや、要望などを知ることができ霞ヶ浦に何を求めているかを知り、それを建設省霞ヶ浦工事事務所をはじめとする茨城県や土浦市等の行政に報告させていただきました。



The 1st Bass Fishing Tournament on May 25, 1997 was one of the events held simultaneously with the 40th anniversary of Tsuchiura Junior Chamber. Approximately 700 people participated in this event and on June 13, 1999, the second tournament was held.

Through the recent bass fishing boom, L. Kasumigaura has become one of the more popular tourist (sport) spots along with L. Biwa and L. Kawaguchi. L. Kasumigaura, our treasure, has as many as 10,000 anglers of all ages on weekends. The objective of this event was to encourage environmental protection and to promote Tsuchiura to non-anglers as well as anglers in order to familiarize them with the lake side, and to do so, another such event was held at the same time. During the tournament, the participants were asked to pick up rubbish under the slogan, "Clean up my own rubbish," with an appeal for efforts to "Try cleaning up. Try not to throw rubbish." 1,361 participants registered for this tournament, and 2,000 people enjoyed the whole day including the other event that was held simultaneously. 758 out of 1,205 participants expressed opinions on L. Kasumigaura in the questionnaire given out on the tournament day, covering their thoughts, requests and suggestions for the lake.

The results were then reported to administrative agencies, such as the Kasumigaura Construction Office, the Ministry of Land, Infrastructure and Transport, Ibaraki Prefecture and the administrative offices of Tsuchiura.

Kasumigaura Meeting 2000 in Tsuchiura

2000年5月20日(土)、21日(日)2日間に渡り1000名を越える参加者で霞ヶ浦ミーティング2000in土浦を開催いたしました。

地域の財産である「霞ヶ浦」の現状は、決して誉められた状況にありません。霞ヶ浦の未来を、方向性を模索してゆく事が必要なのか、霞ヶ浦に接した地域の人々に来ていただき活動報告と情報交換をすることにより、団体間の交流や協力関係を築き、点の活動であったものが霞ヶ浦を一箇所になり、やがて霞ヶ浦全体を覆う面の運動に発展させてゆく事につなげる様となりました。

内容は、子供たちに「未来の霞ヶ浦」をテーマに『作文・絵画コンクール』を開催し、子供の目線で見た霞ヶ浦の未来像が多数発表され、ユニークかつ斬新な発想は大いに参考になりました。そして、お水博士である「大山のぶ代」氏をお迎えしての講演会、東京の大きな中学生「大山のぶ代」ちゃんを交えた、霞ヶ浦を囲む地域の代表による『中学生パネルディスカッション』を行ない新しい発想と大人に対する注文など活発な意見が交わされました。中学生が一同に会し地域や学校での活動を報告し、交流を深めることは大変重要なことで、今後も必要であると確信しております。

また、霞ヶ浦をレンコンの生産日本一と言う食の点から見た講演会を、料理の鉄人の審査員でおなじみの「岸朝子」氏をお迎えして行ない、そして、茨城の霞ヶ浦のレンコンを観光資源として、あらためてPRが出来たことと思います。

このミーティングを通じて、私たちの宝「霞ヶ浦」の現状を把握をし未来を語り、21世紀の子供たちに引き継いで行くために、「環霞ヶ浦」という観点に立ち、観光資源として、生活の糧として、また、心の憩い所として、多角的に協力し行政を超えた活動を展開してゆく必要性を強く感じることができました。



2001年8月11日(土)12日(日)の両日でかすみがうらキャンピングスクールと題し、小学生とその保護者を対象に1泊2日の宿泊学習を開催しました。今回のテーマは「ふれあいと友情」です。霞ヶ浦と、沢さんとの人とのふれあい、多くの友との友情を育んでもらうことを目的といたしました。

内容は、2日間を6つのセミナーで行いました。まず、「自然」と題し観光遊覧船に乗り、湖上から私たちの住むまちや自然を見て霞ヶ浦の風を肌で感じ、匂いを感じて頂きました。次に「水」と題し、霞ヶ浦クイズを行ない、いろいろな角度からの霞ヶ浦を知って頂きました。また、紫キャベツの絞り汁を使いリトマス試験紙を作り霞ヶ浦の水が酸性であることを学びました。ペットボトル浄水器をつくり霞ヶ浦の水が汚れていることを知り、これだけの装置で水がきれいになることを知りました。夜は、全員で花火をし、大部屋では、初めて出会った仲間同士でしたが、この頃には仲良くなり、なかなか寝付かれずにいた子供もいたようです。翌日は早朝より「自然保護」と題してラジオ体操、霞ヶ浦湖畔の散策をしながら、ごみ拾いをし、こんなにも湖畔にごみが落ちていることを知り、捨てではない、汚してはいけないことを再認識させられました。

次に今回のメインのセミナーである「ふれあい」と題した霞ヶ浦での湖水浴をできる泳げるスポットである天王崎の人工ビーチへ移動して、霞ヶ浦を直接肌で感じてもらうことを目的として行されました。人工ビーチで泳ぐのはみんな初めての経験で、これは将来泳げる霞ヶ浦(きれいな湖)にするための意識付けになったことと思います。そして、「友情」と題したバーベキューは、このスクールで知り合った仲間同士で「同じ釜の飯を食べる」ことで各人の友情を深めることができました。

最後に、「まとめ」として、夏休みの思い出の1ページとして絵や作文を書いて楽しかったことを語り合い、振り返りをして2日間を終了しました。

この事業を通して次世代の子供たちが霞ヶ浦をより身近に感じてもらいこれから霞ヶ浦がより素晴らしいものなると願っています。霞ヶ浦を通して子供たちには良い環境教育になり、我々は環境に対して再認識し、子供たちから逆に沢山のことを学び、今後の学習を行っていくための活動の幅となることを確信しました。(参加人数 48名)



この数年間に渡る4つの事業を紹介させていただきましたが、どれを取っても我が青年会議所の霞ヶ浦に関わる代表的とも言える事業といえることでしょう。

我々は今後、自分達をも含めた大人、次世代の子供たちがより美しい霞ヶ浦、泳げる霞ヶ浦、人が集まる憩いの場としての霞ヶ浦として、土浦市を中心とした近隣の市町村が我々の宝としての霞ヶ浦を、まちづくりのための賢明な利用をこれからも、そしてこれからも見据えて活動の場とすることが出来ればと考え、我々青年会議所活動の目的である明るい豊かなまちづくりを目指していきたいと思います。

Kasumigaura Meeting 2000 in Tsuchiura was held on May 20 and May 21, 2000 and had over 1,000 participants.

Despite the importance of L. Kasumigaura to our community, its present condition is not good. People living near the lake were invited to this event, and this event, which looked at ways forward for L. Kasumigaura in the future, provided an opportunity to establish inter-organizational exchange and cooperation through activities and information exchange. It was hoped that this linkage of organizations and people around the lakeshore area would integrate their independent activities into the network.

The meeting consisted of an essay and picture contest for children, and a great number of future images of the lake as seen through the eyes of children were presented or displayed under the contest theme of "The Future of L. Kasumigaura." Their innovative and unique ideas were interesting and inspiring.

The meeting invited Ms. Nobuya Ohyama, "Dr. Water" to give a lecture. In the panel discussion between Ms. Ohyama, who calls herself "a big kid" from Tokyo, and delegates from the junior high schools in the community, animated discussion and opinion exchange took place, which included suggestions and requests to the adults. It is and always will be vitally important to offer an opportunity for junior high students to gather together and exchange information on their local and school activities.

From the perspective of Kasumigaura being the No.1 lotus-root producing district, Ms. Asako Kishi, known as a judge on the "Iron Chef," also gave a lecture, which was successful enough to promote Kasumigaura lotus-root as a tourist draw once again. Through this meeting, with discussion on the present condition of our treasure, L. Kasumigaura and its future, the people strongly recognized the need for diversified cooperation and activities beyond administration from the perspective of "the circum-L. Kasumigaura," L. Kasumigaura as a tourist attraction, source of life and spiritual hometown in order to pass on this treasure to our children in the twenty-first century.

Kasumigaura Camping School 2001

An overnight educational trip for school children and their parents, titled "Kasumigaura Camping School," was held on August 11th (Sat.) and 12th (Sun.), 2001.

This year's theme was "Communication and Friendship," aimed at hands-on experience at L. Kasumigaura, meeting many people and making many new friends.

Six seminars took place over the two days. In the first seminar titled "Nature," the participants boarded a sightseeing boat to view the towns and nature, and feel and smell the wind of L. Kasumigaura. In the seminar titled "Water," they enjoyed a quiz about different aspects of L. Kasumigaura. They also made litmus paper using the juice of purple cabbages and as a result, discovered that the water in L. Kasumigaura is acidic. With the water-purifying devices they made out of PET bottles, they discovered that the lake water is filthy but easily cleaned with this simple device. In the evening, the participants enjoyed some fireworks. The children had met each other for the first time that morning, but by the evening, had become firm friends, and some of them were too excited to fall asleep quickly.

The next morning began with radio gymnastic exercises and a stroll around the lakeshore to pick up rubbish. The children became aware of the garbage problem and the importance of not throwing litter and damaging the environment.

The main seminar for this camp titled "Communication," involved swimming at the manmade beach at Tennozaki, the only spot for lake swimming. It was the first time for all the children to swim at a manmade beach and this provided them with a good opportunity to increase their awareness of a swimmable lake in the future. During the barbecue titled "Friendship," the children broke bread with their new friends, deepening their friendship.

In the final seminar, "Conclusion," the children talked about what they had enjoyed most, summarizing the two days in words or pictures, which added a lasting memory to this fun summer vacation.

This project successfully allowed the next generation to become familiar with L. Kasumigaura and will hopefully ensure a bright future for the lake. The children received some good environmental education and the adults, too, were able to recognize ecological problems and learn a great deal from the children. This will provide the impetus for future projects. (48 people participated)

Conclusion

This report introduced four of our projects from the last four years, all of which are important projects concerning Kasumigaura for the Tsuchiura Junior Chamber.

Tsuchiura Junior Chamber is on a mission to develop a pleasant, affluent community, through making the best use of our treasure, L. Kasumigaura. Tsuchiura Junior Chamber is on a mission to develop a pleasant, affluent community through fostering activities to make sensible use of L. Kasumigaura, the treasure of the neighboring cities, towns and villages around Tsuchiura and to develop the lake into a place of recreation where all citizens including ourselves and our children of the next generation will gather and swim.

— 「霞ヶ浦意見交換会」に関するアンケート —

○このアンケートは、これからのお霞ヶ浦意見交換会に皆様の意見を反映させるためのものです。

○記入して頂いた用紙は、回収箱か下記宛にFAX・郵送等でお送り下さい。

なお、とりまとめの都合上20日までにお送り頂くようお願い致します。

○集計結果は公表致しますが、個人のプライバシーに関する事を公表することは一切ございません。

①本日のご感想（番号に○をおつけ下さい）

- ①とても良かった ②良かった ③普通 ④あまり良くなかった ⑤悪かった

<コメント>（あればお書き下さい）

②霞ヶ浦に対するご意見

③これからのお霞ヶ浦意見交換会の進め方についてのご意見

○お差し支えなければご記入下さい（意見交換会等の情報をお知らせします）

○住所 〒 -

○お名前 (ご所属)

○連絡先 TEL () Fax () e-mail

●ご協力ありがとうございました

<アンケート用紙送付先・問い合わせ先>

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦工事事務所 調査課

tel 0299-63-2415

住所：〒311-2424 茨城県潮来市潮来3510

fax 0299-63-2495

— テーマ記入カード —

- これからのお意見交換会で取り上げたいテーマがありましたらご記入下さい。
- 1テーマ1枚をお願いします。
- お書きになったカードは、回収箱にお入れ下さい。

<テーマ>

記入例：水質浄化

<取り上げたい理由を簡単にご記入下さい>
